

○四番福羽美静 十一番ハ修正説ヲ自退セルニヨリ本官ハ前陳ノ理由ヲ以テ本按ニ但書ヲ加ヘテ但任官ノ際之ヲ辭スル者ハ本條ノ限ニ在ラストナサントス

○十一番山口尙芳 賛成

○議長 四番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○二十番佐野常民 任字ハ束縛ノ意アリトノ説ハ先入主トナリ衆議官ノ腦裏ニ透徹セシヤ議論未タ毫モ衰ヘス然ルニ任ノ字ハ内閣委員モ他ノ文官ニ任スルト同一致ナリト明言スルヲ信セハ固ヨリ但書ヲ加フルハ無用ノコナリ抑壓制ヲ以テ義務ノ外ニ義務ヲ負ハシムルコトアルトキハ乃チ行政官ノ違律ナリ斯ノ如キハ斷シテ其罪ヲ問フテ可ナリ既ニ内閣委員カ束縛スルニアラスト明言セシ以上ハ今但

書ヲ加ヘテ本條ノ力ヲ弱ムルハ最モ不可ナリトス

○四番福羽美静

二十番ハ内閣委員ノ説ヲ妄信シ任ノ字ヲ安心シテ但書

ヲ加フルモ加ヘサルモ同一致ナリト云フト雖モ本官ハ必ス之ヲ加ヘサルヘカラストス本項ハ何ソヤ乃チ兵卒ヨリ下士トナルノ場合ニシテ譬ヘハ舟ニ乗リテ川ヲ渡ルカ如シ其士官トナルハ既ニ前岸ニ達スル時ナリ因テ其前岸ニ達スルノ順序ヲ舉テ法文ニ明記セント欲スルナリ唯内閣委員カ明言シタリト云テ不備モ不明モ論スルヲ要セスト爲スハ本官カ太々怪ム所ナリ

○十二番河野敏鎌

凡ソ萬般ノ事危キヲ可トスルカ安キヲ可トスルカ略

スルヲ可トスルカ詳カナルヲ可トスルカ誰レカ安詳ヲ欲セサル者アラン本項ノ如キハ本官獨リ之ヲ危ウシト爲スノミナラス衆議官

モ亦共ニ危シトスル所ナリ譬ヘハ曖昧ナル契約ヲ爲サハ弱ハ必ス強ニ壓セララルヘシ況ヤ軍政ノ事タル壓制ヲ用フルハ其常ナルニ於テヲヤ故ニ任官ノ際ト明記セスシハ七箇年ノ使役ヲ拒ムコト能ハサルナリ假令番外一番ヲ明言アルモ偏ニ之ヲ恃ムハ未タ以テ法律ヲ議スルノ精神ニ適ハサルナリ故ニ四番ノ説ノ如ク詳ニ之ヲ記載スルヲ可トス

○甘番佐野常民 本官ハ徹頭徹尾但書ヲ加フルトキハ人ヲシテ其希望心ヲ阻抑セシムルノ嫌ヒアレハ之ヲ明記スルヲ好マサルナリ

○議長 四番ノ修正説ニ同意者ハ起立セヨ

○四番起立者十一人

○議長 多數ナルニヨリ四番ノ修正ニ決ス

○外番渡元正 第三條ニ移ラサル前ニ於テ一言セントス原按第二條第三項ヲ刪除セハ甚タ支障アリ元來下士官ハ編隊ノ關鍵ニシテ必用闕クヘカラサルモノナリ千卒ハ得易キモ一士ハ得難シ故ニ原按ニ之ヲ掲ケ平生ニ其教育ヲ要スルナリ若シ之ヲ刪除スルキハ假令兵卒アルモ之ヲ編隊スルコト能ハサルニ至ラシ故ニ此項ハ削除ナラサランコトヲ希フ

○二十番佐野常民 番外一番ハ原按第三項ヲ復セント欲スレト修正委員ハ本按第二條ノ數項ヲ以テ其意ヲ盡セリトス而シテ其志願者ヲ取ルノ意モ亦之ヲ含蓄セリ若シ原按ノ如クセハ人ヲ束縛シテ教導團ニ驅逐セシムルニ至ルヘシ

○外番渡元正 原按第三項ハ重大ナル理由アリ教導團ハ陸軍下士官

ヲ養成スル所ナルカ故ニ検査ヲ經テ之ヲ志願者ヨリ取ルヲ常トシ
 而シテ若シ其志願者定員ニ滿タサルトキハ補充兵ヨリ其才藝アル
 者ヲ撰ヒ之ヲ補充ス若シ之ヲ爲ス能ハサレハ忽チ編隊ニ障碍ヲ生
 ス所謂千卒ハ得易ク一士ハ得難キ是レナリ修正委員ノ之ヲ删除シ
 タルハ志願者ニテ足レリト爲スカ將タ足ラサルモ猶可ナリト爲ス
 カ下士官ハ固トニ多數ヲ要スルモノニシテ彼戰時等ニハ士官ヲ失
 フカ爲メ多ク兵士ヲ失フコアリ軍政アルヨリ以上ハ其數ヲ滿タシ
 メサルヘカラス又既決第四項ハ直ニ下士ニ任スルモノニシテ目下
 説ク所ハ第四項ニ次クモノナリ仍テ之ヲ第五項ニ掲ケラレンコヲ
 希フ

○廿四番 細川潤次郎 原案第三項ヲ删除セシハ廿番ノ説明既ニ之ヲ盡セ

リ此事タル當時修正ニ際シ番外一番ト議遂ニ協ハサリシ既ニ目下
 第四項ニ但書ヲ加ヘタルニ於テハ益々自由ノ性質トナレリ番外一
 番ノ説ハ所謂方枘圓鑿タルヲ免カレス例ヘハ志願ニ出ル者ニアラ
 スシテ只讀書算術アリト稱シ之ヲ拔擢シ而シテ其恩典ヲ問ヘハ只
 服役ノ長キアルノミ又番外一番ハ志願者少ナクシテ既ニ其員ヲ欠
 ケリト云ヘトモ其原由ハ何ノ點ニ在リヤ俸給少ナキカ爲メカ將タ
 年限長キカ爲メカ將來ニ望ミナキカ爲メカ抑モ滿限歸郷ニ至リテ
 歸装ヲ爲スノ資ナキカ爲メカ蓋シ此數者ノ外ニ出サルヘシ然ルヲ
 其志願者少ナシト云ツテ壓制以テ之ヲ驅ル如キ惡法ハ豈削除セサ
 ルヘケンヤ

○番外一番 渡正元 廿四番駁議ノ如タンハ既ニ議定セル第四項ト雖トモ

○亦無用ナリ抑兵役ハ三箇年トスルモ其實八十箇年ニシテ一旦事アルノ日ニ備フルモノタリ故ニ常備ヨリ選シテ教導團ニ編入スルモ第四項ノ下士ニ任スルト同一ニシテ但是ハ直ニ任シ彼ハ教育ノ後ニ任スルノ差アルノミ又原案拔擢ノ字ヲ不可ナリトセハ之ヲ刪ルハ寧ロ可ナリ之カ爲メ全項ヲ刪除スルハ本官其故ヲ知ラサルナリ既ニ常備兵ニ入りタル上更ニ教導團ニ入ルヲ好ムモノアレハ之ヲ取リ然ラサレハ之ヲ止ム固ヨリ其所ナリ故ニ之ヲ第五項ニ掲クル決シテ不可ナシトス

○二十番佐野常民番外一番ノ説ハ二途ニ分レテ太々不明瞭ナリ夫ノ兵八十箇年ノ服役ニシテ教導團モ十箇年ノ期限ナリト云フカ如キモ只豫備後備ヲ併セテ十箇年ナルノミ若シ本項モ第四項ト同ク但書

ヲ加ヘント爲スニアレハ或ハ妨ケナキニ似タレトモ一旦教導團ニ編入セシ上ハ之ヲ出サスト爲スハ豈不都合ナラスヤ故ニ之ヲ刪ルハ不可ナシ

○七番齋藤利行建議ヲ爲ス番外一番ノ原案第三項ヲ挿入セントスルハ委員職掌上ノコナレヒ此會議ハ既ニ修正委員ノ報告案ヲ以テ問題トナレリ故ニ縱ヒ番外一番ノ説アリトモ議官中ヨリ之カ修正説ヲ提出スルモノアルニアラサレハ議場ノ問題トス可ラサルナリ仍テ其討論ヲ止メ直ニ第三條ニ移リテ議定センコトヲ乞フ

○渡元番外一番修正 七番ハ番外一番ト反復討論スルハ無用ナリト云フモ修正委員ノ報告案ハ案外ノコナルヲ以テ之ヲ論辨セサルヘカラス若シ此等ノ場合ニ於テモ内閣下附ノ原案ニ論及スヘカラストノ規

則アラハ格別ナレトモ苟モ其否ヲサル間ハ原案ヲ主持スルハ本員
職掌ノ係ル所ナレハ之ヲ論スル決シテ不可ナシトス而シテ其問題
ト爲スト否トハ固ヨリ衆議ニアルヘシト雖モ今既ニ嚴議ヲ受ケタ
リ願グハ之ヲシテ問題トナサレンコトヲ

○議長 番外一番ハ原案回復ノ説ヲ主張スト雖モ成規ニ由リ問題ト
爲スヲ得サルモノナリ而シテ本日ハ既ニ時刻モ移リタレハ此ニ本
會ヲ閉チ猶明日續會ヲ開クヘシ散會セヨ

午後第二時六分閉場

元老院會議筆記明治十二年九月十六日

○第四百十六號議案 徵兵令及ヒ近衛兵編 第二讀會 九月十五日

議長 親王

出席議員

- 一番 東久世通禧
- 二番 伊集院兼寛
- 三番 福羽 美靜
- 四番 秋月 種樹
- 五番 大久保一翁
- 六番 齋藤 利行
- 七番 大給 恒
- 八番

九番	黒田 清綱
十一番	山口 尙芳
十二番	河野 敏鎌
十四番	中島 信行
十五番	津田 眞道
十八番	津田 出
十九番	河田 景與
二十番	佐野 常民
廿一番	岩下 方平
廿三番	柳原 前光
廿四番	細川潤次郎

廿六番 伊丹 重賢
 廿七番 河瀬 眞孝
 外 太政官少書記官渡 正元
 外 太政官少書記官馬場 素彦
 午前第九時四十分開場
 ○議長 本日ハ第四百四十六號議案第三條以下第二讀會ノ續會ヲ開ク
 各位例ニ遵ヒ發言セヨ
 書記官 本田 親雄 左ノ案ヲ朗讀ス
 第三條 輜重輸卒看病卒并ニ職工ハ各其志願者ヲ徵募スト雖モ壯
 丁ノ身幹定尺ニ滿タス又ハ銃器ヲ執ルニ適應セサル者ハ亦諸兵
 ト同ク徵集シ該役ニ服セシムルヲアルヘシ

○番一 番渡正

本條ノ主旨ハ即チ原案第二條ノ第七第八二項ニシテ
現行ノ徵兵令ニ在ラサルモノナリ然ルニ修正ニ依テ本案第三條ト
爲シタルハ太々穩安ナラス其理由ハ本文輜重輸卒看病卒并ニ職工
ハ各其志願者ヲ徵募スト雖モ壯丁ノ身幹定尺ニ滿タヌ又ハ銃器ヲ
執ルニ適應セサル者ハ亦諸兵ト同ク徵集シ該役ニ服セシムルヲア
ルヘシトアレハ主トシテ志願者ヲ取り其不足ハ兵役ニ堪ヘサルモ
ノヲ以テ之ヲ補フモノニシテ即チ之ヲ二途ニ取ルナリ抑輜重輸卒
看病卒職工等ハ歩騎砲工兵等ニ比スレハ大ニ閑ナルモノニシテ且
其在營モ僅ニ六箇月ヲ經レハ歸休セシムルモノタリ殊ニ輸卒ハ常
備ト違ヒ甚々簡ナリ然ラハ其身幹定尺ニ滿タヌ又ハ銃器ヲ執ルニ
適應セサルモ之ヲ顧ミスシテ志願スルハ治定ナリ故ニ其定尺アル

モノハ總テ常備ニ充ルヲ以テ志願スルモノ之ヲ許サ、ル可シ然ラハ
三十一歳後ノ國民軍中ヨリ志願ストセンカ是僅々タルモノニシテ
或ハ一指ナク一目ナキ者等ノ如キハ軍醫ノ取ラサル所ナルヲ以テ
志願アリトモ遂ニ許サ、ルヘシ果シテ然ラハ其員數ハ極メテ僅々
ナルヲ知ル原ヨリ輜重輸卒等ハ多人數ヲ要スルモノナレハ其不足
ヲ生スルハ論ヲ待スシテ明カナリ然ルニ此ノ如ク修正スルハ抑モ
何ノ所見ヲ以テ然ルヤ實ニ其意ノアル所ヲ了解スルヲ能ハサルナ
リ因テ本條中ニハ諸兵ト同ク取ルヲ記入セサルヘカラス

○十一番 山口 尙勞

内閣委員ノ説明ノ如ク本條ハ實ニ穩安ヲ缺クヲ以テ
之ヲ修正セサルヲ得ス今本案ノ大旨ハ志願者ヲ取ルヲ主トスト雖
モ元來徵兵令ハ二年ノ服役ヲ義務ト爲スノ精神ニシテ志願者ヲ

徵募スルニアラス既ニ現行法ニハ身幹定尺ニ滿タス或ハ銃器ヲ取
ルニ適應セサルモノハ之ヲ取ラサルノ規則アリ蓋シ一家ノ活計ヲ
營ムカ如キハ身幹ノ長短執銃ノ適否如何ニ關セサルナリ然ルニ其
身幹ノ適應セサルモノニ特權ヲ與ヘテ之ヲ免スハ豈不公平ナラス
ヤ夫レ志願者ヲ取ルヲ以テ陸軍ノ便利法ナリト爲スカ如キハ即チ
陸軍ノ職務上ニ屬シテ此法律ニ記スルヲ要セサルモノナリ故ニ定
尺未滿或ハ執銃ノ不適ヲ以テ免スヘキモノニアラサルノ意ヲ貫徹
セシメサレハ不公平ニシテ法律ノ精神ニ背クモノトス因テ之ニ修
正ヲ加ヘ壯丁ノ身幹定尺ニ充タス又ハ銃器ヲ執ルニ適應セス若ク
ハ各自ノ職業ニ依テ諸兵ト同シク徵集シ輜重卒看病卒并職工ノ役
ニ服セシムルコトアルヘシトシ其職業ノ所長ニ應シテ之ヲ使役セハ

陸軍ノ便利ハ極メテ大ナラン獨逸國等ニテハ其所長ニヨリテ之ヲ
徵募セリト云フ木匠裁縫師電信技工靴工等總テ其長技ヲ以テ之ヲ
使用スレハ上下ノ便利タルハ論ナク且不公平ニ陷ラスシテ法律ノ
精神ヲ發揮タラシムルニ足ラン

○七番藤利行 十一番修正説ノ大旨ハ身幹定尺ナルモノヲ以テ職工兵
ニ取ルトノ意ナルカ設シ然ラハ第一第二項ハ皆刪ルヘキカ敢テ疑
ヲ質ス

○十一番山口身幹定尺ニ滿タサルモ之ヲ全備ノ人ト見做スナリ又
僅ニ一目ヲ眇シ一指ヲ失フカ如キモノハ之ヲ輜重輸卒看病卒并職
工等ニ取ルコトアルヘシト云フノ意ニシテ即チ内閣委員ノ曾テ辯明
セル身幹定尺ニ充ルモ銃ヲ執ルコトヲ好マスシテ簡略ナル科役ニ服

セシトヲ志願スルニ至ルヲ不可トスルナリ敢テ第一項第二項ヲ刪
ルニアラス只時ニヨリテ之ヲ換ユルコアルヘキノミ之ヲ要スルニ
徴兵年度ノモノハ一般ニ徴募シ其銃ヲ取ラシメサルモ看病卒等ニ
ハ尙ホ之ヲ使役スルナリ

○議長 十一番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○四番福羽美静 志願者ヲ取ルコト云ハサルハ不可ナリ其志願ヲ以テ之

ヲ取ルト定メ其不足ヲ補フカ爲メ定尺ナク又ハ銃器ヲ執ルニ適應
セサルモノヲ取り各其所長ニ從テ之ヲ採用スルノ法ナカルヘカラ
ス因テ本條ヲ修正シテ輻重輪卒看病卒并職工ハ概テ其志願者ヲ徴
募スト雖モ或ハ丁壯ノ身幹定尺ニ充タス或ハ銃器ヲ執ルニ適應セ
サル者又ハ各自ノ職業ニ依テ便アルモノハ諸兵ト同ク徴集シ該役

ニ服セシムルコアルヘシトシ壯丁ノ字ハ轉置シテ丁壯ト爲スヲ可
トス何トナレハ明治五年ノ詔ニ丁壯トアルニ據ルナリ再ヒ書記官
ノ本修正ヲ朗讀アラシコト望ム

書記官本田親雄 四番ノ修正案ヲ朗讀ス

輻重輪卒看病卒并職工ハ概テ其志願者ヲ徴募スト雖モ或ハ
丁壯ノ身幹定尺ニ充タス或ハ銃器ヲ執ルニ適應セサル者又
ハ各自ノ職業ニ依テ便アルモノハ諸兵ト同ク徴集シ該役ニ
服セシムルコアルヘシ

○廿六番伊丹重賢 賛成

○議長 四番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外馬場素彦 二番 元來本條志願者云々ノ字ノ穩當ナラサルハ既ニ番外

一番之ヲ説明シ四番モ亦其區域ノ狹隘ナルヲ論セリ畢竟本條ニ志願者ノコヲ掲クルハ不都合ナルヲ以テ全ク之ヲ刪ルヘシ惟フニ本案ニ其志願者云ヤト記スルハ輻重輸卒看病卒并職工ハ盡ク志願者ヨリ募リ其他身幹不合格ノモノ、ミヲ取ルノ意ナラン夫レ原案ノ大旨タル輻重輸卒并看病卒諸隊職工ヲ徵募スルノ方法ハ決シテ他ノ四兵ヲ募ルニ異ナラスシテ必ス之ヲ徵募スルノ精神ナリ然ルヲ本案ノ如クスルハ輻重輸卒看病卒職工ハ其服役ノ簡ナルヲ以テ其志願者ハ益々多クナル可シ而シテ其兵ヤ固ヨリ定員アリ因テ其志願者中ヨリ之ヲ採ラントセハ或ハ抽籤ノ法ヲ用ヒサルヲ得ザルニ至ラン原來本邦ニ輻重輸卒看病卒職工ノ如キヲ取ルノ法ナカリシモ歐洲ニハ其方法既ニ具備セリ然ルモ其期限ノ短カキヲ以テ之

ヲ志願スルモノ多キニヨリ終ニ其志願ヲ爲スヲ得ストノ明文ヲ掲クルニ至レリ之ヲ以テ之ヲ見レハ其明文ナキ國ト雖モ其數ノ多キヤ類推スヘシ又看病卒ハ其年限諸兵ト同シキニ依リ志願者ナキヤト云フニ是レ決シテ否ラス何トナレハ四兵ハ以テ戰鬪ニ臨ムモ看病卒ハ之ニ臨マラスシテ可ナレハナリ且看病卒ハ才幹アリテ稍ヤ舍密衛ヲモ解スル者ノ如キハ更ニ便利ナルヲ以テ之ヲ採ルヤ自カラ其方アリ又職工ニハ大工等ヲ選マサレハ不便ナリ故ニ一切志願ニ取ルトスレハ或ハ其不便利ヲ生セン若シ職工ニ適スルモノモ定尺アレハ四兵中ニ編入セサルヲ得ス而シテ其人滿期歸家スルモ自家經營上不都合アルヘキニ因テ之ヲ志願者ト爲サハ忌避等ノヲモアリ又滿期後ノ不便ナルヲアリ四番ハ志願者ノ字アラサレハ區域

狹隘ト云フモ之レアラハ却テ狹隘トナルヘシ若シ之ヲ置カハ平時免役又ハ國民軍ノ爲ニスルニ止マルノミ仍テ志願者ノ字ヲ削リ原案ノ如ク四兵ト之ヲ同様ニ取り其取捨ハ定尺ナキモノ又ハ不適應ノ者ヲ取ルヘシト爲サンコトヲ希望ス

○十二番 河野 敏錄 本官ハ簡單ナル修正說アリ十一番ノ說ニ近シト雖モ更ニ機會ヲ得ハ之ヲ提出セントス蓋シ四番ノ說ト雖モ内閣委員ノ顧慮スル如キ志願云々ニハ懸念アラサルナリ原ヨリ其徵募ト云フハ必ス志願者ニ限ルニアラス假ヒ志願者アルモ之ヲ取ルト否トハ其徵募官ノ方寸裡ニアリ然ルヲ強テ之ヲ削ラント欲スルハ見解ヲ誤ルモノト云フヘシ單ニ人ヲ備使スルコトナレハ之ヲ法律ニ掲クルヲ要セス既ニ該役ニ服セシムルコトアルヘシト明記スルハ此ノ如キ

コトヲ爲サシムルヲ得ルト云フニ過キス現ニ徵兵令アルモ戰時ニ當リ義勇兵ヲ募ルコトヲ得ルナリ徵兵令ニハ之ヲ明記セサルト一般ナラスヤ故ニ本官ハ之ヲ修正シテ丁。壯。ノ。身。幹。定。尺。ニ。滿。ダ。ス。又。ハ。銃。器。ヲ。執。ル。ニ。適。應。セ。サ。ル。ト。キ。ハ。輜。重。輸。卒。看。病。卒。若。ク。ハ。職。工。ト。シ。テ。服。役。セ。シ。ム。ル。コ。ト。アル。ヘ。シ。ト。爲。サ。ン。ト。ス。仍。テ。四。番。ニ。モ。同。意。セ。ス。内。閣。委。員。ノ。說。ニ。モ。左。袒。セ。サ。ル。ナ。リ

○二十番 佐野 常民 内閣委員ハ修正ノ意旨ニ通徹セサルカ如クナレハ更ニ其意ヲ陳セントス抑兩委員ハ本案ヲ原案ノ如ク四兵ト同シク爲スヘシト主張スト雖モ若シ之ヲ一般ノ義務トセハ何ソ此種ノ兵ヲ名ケテ輜重輸兵看病兵職工兵ト爲サ、ルヤ夫レ四兵ハ鮮衣豐給ナレト輜重輸卒看病卒職工等ハ之ニ反シ粗衣薄給ナリ同一ノ使役ヲ

爲サシメ其待遇ノミヲ殊異スルハ不可ナラスシテ何ソヤ苟モ義務
ノ負擔ハ成ルヘク同一ニ爲スヘキハ論ナシト雖モ此種ハ義務ニ差
異アルニ依リ杓子定規ヲ以テ論スヘカラサルナリ今内閣委員ノ説
ノ如ク輜重輸卒看病卒職工ハ多數ヲ要スト云ハ、全國壯丁ヲ總テ
徴取シ盡スモ知ル可ラス此ノ如ク爲スモ陸軍便利ノ一偏ヨリ論シ
來レハ極メテ便利ナルヘシト雖モ人民ノ義務ニ於テハ甚タ權衡ヲ
失フモノトス如シ此等モ四兵ト同一ニ爲ストセハ格別ナレ現況
ニテハ四兵中ヨリ輜重輸卒看病卒職工ニ使用スルコトヲ得ヘカラサ
ルナリ歐州ニ於テモ即チ身幹定尺ナキモノヲ取ルノ法ニシテ又其
服役期限ヲ短縮スルノ便利ヲ與フルコトアリ是レ原ヨリ其義務ノ差
違アルヲ以テナリ故ニ廣ク人民中ニ輜重輸卒看病卒職工ヲ取ルコ

ハ之ヲ爲スヘカラス
○十一番山口 四番ノ修正ハ稍本官ノ意ニ近シ何トナレハ「概ネ」ノ文
字アルヲ以テナリ而シテ或議官ノ説ハ修正ノ精神ヲ打破スルモノ
ト云フヘシ現今三十二萬ノ丁壯中ニ於テ其採收スヘキモノ僅ニ三
萬ニ充タスシテ其餘ハ身幹定尺未滿又ハ廢疾等ノモノナリ夫レ斯
ノ如キ狀況ニテハ何ヲ以テ國家ヲ維持スヘキヤ廢疾ノ如キハ亦已
ムヲ得スト雖モ身幹定尺未滿ノモノハ一家ノ活計ヲ爲ス能ハサル
カ決シテ否ラス若シ人アリ假令定尺ナクトモ身體強壯ナル者ニ何
ヲ以テ免役ノ特權ヲ與ヘタルヤト問ハ、恐ラク立法官ハ其答辭ニ
苦ムヘシ四番ノ「概ネ」云ヤト云フハ大ニ同意スルナリ茲ニ的例ヲ舉
レハ一昨年騒亂ノ時ニ方リ十萬以上ノ夫卒ヲ要スルモ應スル者ナ

キヲ以テ一日十圓以上ノ備償ヲ與ヘ僅ニ負傷者ヲ引取りタリト聞
ケリ内訌尙此ノ如シ況ヤ外寇四疆ニ迫リ戰ヲ開クアルニ於テヲヤ
然レモ既ニ之ヲ義務ト爲スルハ之ヲ取ルコト容易ナリ因テ原案第二
條ノ精神ハ存セサルヘカラス單ニ志願者ヲ取ルト云フハ兵事ニ心
ヲ用ヒサルモノト云フハキナリ

○二十番佐野常民ノ論旨ハ可ナリ然レモ平時ニモ一昨年ノ如ク
十萬人ヲ備ヘサルヘカラスト云フハ兵事ニ疎濶ナル言ト云フヘシ
夫卒ハ決シテ兵ニアラス常備兵ハ三萬ニテ不足ナリ之ヲモ十萬ト
爲スヘシトハ固ヨリ希望スル所ナレモ國力ノ足ラサルヲ何如セン
○又其定尺未滿ノモノハ今年ノ調査ニ依レハ六千ノミ十一番ノ説ノ
如クセハ此六千ノ人員ヲ總テ取ラサルヘカラス若シ其身幹定尺未

滿ノモノハ悉皆之ヲ取ルト爲スヘキカ決シテ爲スヘカラサルナリ
然ラハ三萬ノ常備ハ不足ニシテ外國ニ對シテ權利ヲ缺クアルモ國
力ノ尙如ニアルコトナレハ實ニ止ムコトヲ得サルニ出ツ故ニ人民ニ義
務ヲ負ハシムルハ平均セサルヘカラサルナリ

○四番福羽美静本官ノ修正説ニ付テ許多ノ議論ヲ來モリ十一番ハ本官
ノ概ネラフ字ニハ同意シ其他ヲ否ラストスト雖モ未段文意ノ如キ醫
者ノ門人等ハ之ヲ看病卒ニ用フルハ尤モ便利ナルコトナレハ即チ本
官修正ノ如クナラシコトヲ欲スルモノナリ到底志願者ノ字ヲ記セサ
レハ服セシムルコトアルヘシト記シタル文意ヲ明瞭ナラシムル能ハ
サルナリ

○議長 四番ノ修正説ニ同意ノモノハ起立セヨ

起立者七人

○議長 少數ナルニヨリ四番ノ修正説ハ消滅ス

○十二番 河野 敏録 本官修正ノ大意ハ前刻既ニ陳述シタレモ更ニ今一回

ノ陳述ヲ爲スヘシ志願者ヲ刪ルハ本官ノ精神ナリ何トナレハ元來

法律ハ義務ト權理トヲ定ムルニ外ナラス本案ハ果シテ之ヲ定メタ

リヤト云フニ決シテ否ヲス熟ラ志願者ノ字ヲ存スルノ説ヲ聞クニ

例ヘハ定尺ナキ者六千人アレハ盡ク皆之ヲ取ルヲ恐ル、ト云フニ

過キス而シテ其盡ク取ルヲ制スルノ力アリヤト問ハ、決シテ然ラ

サルカ如シ服セシムルコアルヘシトアルモ若シ不足スルキハ壯丁

ノ身幹云々ト云ヘハ陸軍省ニテ其六千ヲ盡ク徵收スルニ至ルモ遂

ニ一言ノ不服ヲ唱フルコトヲ得サルナリ然ラハ則チ之ヲ掲クルモ全

ク其實力ヲ有セサルモノト云ハサル可ラス因テ若シノ上ナレ雖
モ「字ヲ刪リテ丁壯ノ身幹定尺ニ滿タス又ハ銃器ヲ執ルニ適應セ
サル者ハ輜重輸卒看病卒若クハ職工ト爲シ該役ニ服セシムルコト
ルヘシト修正セント欲スルナリ」

○十一番 山口 尙勞 賛成ス輜重卒等ハ平時ハ一小隊ニテ足レリトスルモ

戰時ニハ許多ヲ要スルヤ明ナリ其時ニ臨ミ卒然之ヲ雇入ント欲ス

ルモ之ニ應セサルハ戰備ヲ爲スコトヲ得ヌ事ニ臨テ一日ノ雇賃數

月ノ活計ヲ支フルニ足ルノ金ヲ得テ始メテ其雇ニ應スル等ノコト

ヲハ其天下ノ經濟ニ害ヲ與フル實ニ大ナリトス因テ平時ニ於テ之

ヲ定ムルヲ可トス平時ニ之ヲ定ムルニハ法律ヲ以テ義務ヲ負ハシ

メサル可ラサルナリ

○議長 十二番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十四番 中島 信行 本官ハ四番ノ説ヲ可トシテ沈黙セシカ今十二番ノ修

正ニ對シテハ一言セサルヲ得ス抑法律ハ權利ト義務トヲ定ムルト

云フ本條ハ即チ其權利ト義務トヲ定メタルモノナリ又志願者ノ字

ヲ刪レハ根幹ヲ刪リ其枝葉ヲ存スル者ト云フヘシ徵兵令ハ戰ヲ主

トスルノ兵ヲ徵スルノ令ナリ輜重輸卒看病卒職工等ハ従前ノ徵兵

令ニハ之ヲ掲ケス今之ヲ掲グルハ一昨年ノ西南ノ役ニ懲リタルニ

據ルナルヘシ輜重輸卒看病卒職工等ノ戰線ニ出テサルハ徵兵令ノ

精神ナリ依テ其戰線ニ出ルノ兵ヲ根本トシテ出テサルモノヲ枝葉

ニセサル可ラス又其賛成者ノ説ニ輜重輸卒看病卒職工ナケレハ戰

闘ヲナスコトヲ得スト云フカ如キハ尤モ惑ノ甚シキ者ト云ヘシ其説

ニ定尺ニ滿チタルモノハ必ス怨嗟スヘシト云フト雖モ本官ハ却テ

其定尺ニ滿タサルモノ之ヲ怨嗟スヘシトス何トナレハ定尺ニ滿チ

タルモノモ僥倖ニテ兵役ヲ免カル、モノアリ之ヲ措テ未滿ノ者ヲ

取ルトセハ其定尺ノ滿タサルモノハ滿チタルモノヲ怨ムニ至ルハ

必然ナレハナリ苟モ此意ヲ詳カニセハ其惑ヲ釋クニ足ラン

○十二番 河野 敏録 或議官ハ輜重輸卒看病卒職工ハ戰線ニ出テス四兵ハ

出テ闘戰ス本令ハ此四兵ヲ根本トシタルノ原則ナルヲ以テ云々ト

反撃スレモ原ヨリ其原則ニ關係スルノ文ナレハ殊ニ云々不足スル

トキハ壯丁ノ云々ト記セサルヘカラス且本條ハ二様ニ記シタル文

章ナリ輜重輸卒看病卒職工ハ決シテ原則中ニアラサル者ナリ是レ

宛モ今年ノ定額金ノ不足ヲ補フニ去年ノ剩餘金ヲ以テスルト一般

總テ六千有餘ノ定尺ニ滿タサルモノヲ取テ輜重輸卒看病卒職工ニ充ツルモ誰カ之ヲ非議スル者アラシヤ且定尺ニ滿タサルモノヲ取ルハ嚴刻ナリト云ヘル抑法律ヲ以テ寬宥ノ特典ヲ與フルモノハ癡疾若クハ不具ノモノニ限レリ若シ其等ノモノヲ取レハ之ヲ嚴刻ト云フモ可ナラシ畢竟定尺ニ滿タサルモノヲ取ルヲ嚴刻ナリト云フハ人ヲ取ルノ多キハ嚴刻ト云フニ過キサルヘシ斯ル贅文ハ本案ニ掲クルニ及ハサルナリ

○十八番^{津田} 十二番ハ若シ不足スルキハ壯丁ノ身幹云々ト記スレハ志願者ヲ却ケ直ニ定尺ニ滿タス又ハ銃器ヲ執ルニ適應セサルモノヲ悉皆取り盡スモ一言其非ヲ咎ムルヲ得スト論及スレハ本官ハ「離モ」ノ字ニカヲ用ヒタルヲ以テ若シ不足スルキハ「」ノ數字ヲ挿入

スレハ一層本官ノ意ヲ暢達シ併テ十二番駁說ノ意ヲ釋然ス可シト信ス

○議長 十二番ノ修正說ニ決ヲ取ラントス

○外一番^{渡正} 決議前ニ當リ十二番ノ修正ニ對シ一言ヲ爲サントス

其說ハ「志願者」ノ字ヲ刪リタリ然ルニ志願者及身幹定尺ニ滿タス又ハ銃器ヲ執ルニ適應セサルモノ、ミニテハ輜重輸卒看病卒職工ノ人員ニ不足ヲ生スルヲ以テ職業ノ字ヲ挿入セント欲ス今四年來ノ表ニヨリテ實際ヲ舉ケテ其例ヲ示サンニ即チ

類別	年 號	從明治九年 至同十二年	徵兵并免役科目相當人員表
	明治九年	同	同
	同十年	同	同
	同十一年	同	同
	同十二年	同	同

二十歳丁壯之總員	二十九萬六千八百八十六人	三十萬〇千二百五十九人	三十二萬七千二百八十九人	三十二萬五千九百九十四人
免役身幹定尺	一萬三千九百八十四人	一萬千〇八十八人	八千二百四十一人	六千七百三十九人
連名未滿之者	八十四人	一人	一人	九人
嬴弱ニシテ宿病及ヒ不具等之者	三千七百五十四人	三千二百五十八人	三千六百四十三人	二千六百八十八人
簿中人	四八	八八	三二	二二

合セテ九千六百人ニ過キス是人數中ヨリ輜重輸卒看病卒職工ヲ採取スヘシト云ハ、實ニ甚タシキ不足ヲ生ス由テ定尺アルモノモ落籤ノモノハ之ニ輜重輸卒看病卒職工ヲ取ルヲ得ルノ道ヲ開カサレハ決シテ補足セサルナリ況ヤ九千六百人中ニ嬴弱廢疾不具者アルニ於テヨヤ益其不足ヲ生スルヲ知ルヘキナリ故ニ之ヲ加フルヲ欲セス

○十二番 河野 敏 録 内閣委員ハ本官ノ修正ニ「職業ニヨリ」ノ字ヲ挿入セサレハ不都合ナリト云ヘ、本案既ニ之ヲ刪リ其字ハ只四番ノ修正中ニ見ヘタルノミ尙第三讀會アレハ發言ノ機會アルヘシトス別ニ辯駁ヲ要セサルナリ

○十一番 山口 尙 芳 職業ニヨリ「ノ」字ヲ記スルヲ要トセス元ヨリ定尺ニ滿ルモノヲ以テ輜重輸卒看病卒職工ニ充ルハ當然ノ理ニシテ單ニ四兵ノミニ之ヲ用フルノ理ナシ時ニヨリテ職工ニ使用スルコトアルヘク決シテ之ニ用ヒサルノ道理ナシ然ラハ之ヲ掲ケサルモ不足ヲ生スルノ理ナシトス

○議長 時正午ナルヲ以テ午餐ノ爲メ一應散會セヨ

正午閉場

○午後零時十分開場

公務ニ
付退席

八番

大給 恒

○議長 午前ノ續會ヲ開ク尤モ本案ハ急施ヲ要スルヲ以テ三時マテ

モ開場スヘシ各位此意ヲ體シテ議定セヨ

○二十番 佐野 常民 輜重輸卒看病卒職工ハ諸兵ト同シク募ル可ラス若シ

之ヲ輜重輸兵看病兵職工兵ト其名目ヲ公稱シテ取ルコトヲ得ハ之ヲ

取り得ヘキモ其給俸ヲ薄少ニシ亦其權利ヲ輕クスルハ斷シテ爲ス

ヘカラサルコトナリ又十一番ノ輜重輸卒看病卒等ノ説明ハ戰時ニ就

テノ説ナリ若シ是等ヲモ平時ヨリ慣熟セシメント欲セハ陸軍ニテ

其定限ヲ立テ之ヲ召募兵トスヘシ一般ノ徵兵ト爲スヘカラス又十

二番ノ説ノ如ク志願ノ字ヲ刪ラハ或ハ強テ定尺ナキ者不具ノ者モ

召募シテ徵兵ト爲スニ至ルヲ恐ル依テ原案ノ如クセサル可カラス

其理由ハ十四番ノ説既ニ之ヲ盡セリ故ニ別ニ喋ヤスルヲ要セサル

ナリ

○十二番 河野 敏録 廿番ノ説ニ曰ク志願者ヲ主トシ之ヲ補フニ定尺未滿

ノ丁壯ヲ取ルヲ其本體ト爲スト果シテ然ラハ何ノ爲メニ當初其如

ク報告セサルヤ議場ニ於テ論説ノ繁滋ニ涉ルハ委員ノ本意ニアラ

サルヘシ志願者ノ字ヲ掲クルモ實際ノ施爲上ニ於テハ廿番ノ説ノ

如キ功用ハアラサルナリ假令盡ク六千有奇ノ定尺未滿ノ丁壯ヲ徵

取スルモ之ヲ如何トモ爲ス能ハス畢竟陸軍省ノ便宜ニ依ラサルヲ

得ス然ラハ修正委員ノ説ハ虚構ト云フヘキノミ又廿番ハ十一番ノ

説ニ對シ駁撃ス下雖モ固ヨリ法律ヲ解スルニ異同アルハ當然本案
 下雖モ亦同様ナリ然ルニ自ラ修正セシ法案ハ讀者皆同ニ解シ得
 べシトハ寧ロ思ハサルヲ甚シト言ヘキナリ
 ○十一番山口 尙勞 二十番ハ本官ノ説ハ區域狹クシテ不足スト云フト雖
 モ決シテ然ラス未ダ志願者ヲモ取り又身幹定尺ニ滿タサルモノヲ
 モ取ルト發言セシコナシ廿番ハ誤解セリアルヘシト云ヘハ必ス他
 ○ニ主タルモノナカルヘカラスト論シタルノミ
 ○廿番佐野 常民 本官ノ誤解ナルカ將タ失言ナルカハ姑ク措キ單ニ若シ
 不足スルトキハト云ハ、只本條ノ意ヲ深クスル迄ナリ定尺ナキモ
 ノ七割八割ノ不足ヲ生セサレハ定尺ナキモノヲ取ルハ行政官之ヲ
 爲サスト信ス固ヨリ定尺ニ滿タサルモノ、ミニテハ不足ナルカユ

ヘ志願者ヲ取ルト云フモノニシテ即チ輻重輪卒看病卒等ノ精神ナ
 リ十四番ノ説明ハ明了ナリ到底本案ノ如クナランコヲ希望スル
 ○十八番津田 出 本條ト雖モ「下」壯丁ノ上ニ若シ不足スルトキハノ九
 字ヲ添加シ猶且適應セサル者「下」ハ亦諸兵ト同クノ七字ヲ削除
 シ「下」ノ一字ヲ加フルヲ可トス是レ特ニ意義ノ修正ノミニ止マラス
 ○文章モ亦是ノ如クナラサルヘカヲサレハナリ
 ○十二番河野 敏録 賛成ス此ノ如ク修正セサレハ法律ノ体ヲ爲サ、ルヲ

○議長 十二番ノ修正ニ同意ノモノハ起立セヨ
 ○議長 起立者四人
 ○議長 少數ナルヲ以テ十二番ノ説ハ消滅ス
 ○議長 十八番 本條ト雖モ「下」壯丁ノ上ニ若シ不足スルトキハノ九
 字ヲ添加シ猶且適應セサル者「下」ハ亦諸兵ト同クノ七字ヲ削除
 シ「下」ノ一字ヲ加フルヲ可トス是レ特ニ意義ノ修正ノミニ止マラス
 ○文章モ亦是ノ如クナラサルヘカヲサレハナリ
 ○十二番 賛成ス此ノ如ク修正セサレハ法律ノ体ヲ爲サ、ルヲ

○以テナリ

○十四番中島信行

賛成ス前ニ論シタルハ志願者ノ字ヲ存セント欲シテナリ今十八番ノ修正ハ彌々周密ナルヲ覺フ

○議長

○二十番佐野常民

○ス若シ十八番ノ説ノ如クスルキハ其本則ハ定尺ナキモノハ總テ義務ノ無キ者トナルニ似タリ本案ノ如キハ義務全クナキニアラス故

○ニ修正ハ文章ノ佳ナルカ如キモ其意味ハ寧ロ本案ヲ可ナリトス

○十八番津田出

○シハ定尺ナキモノ不具ノモノハ義務ハ一切之ナキモノトナルカ如キモ全ク義務ナキモノニハアラスト云フ本官意フニ然ラス定尺ナ

キモ全ク義務ナキモノニハアラスト云フ本官意フニ然ラス定尺ナ

キモノハ義務ナキモノナルハ實際現ニ然リトス何トナレハ定尺ナ

ケレハナリ然ルニ本案始メテ其定尺ナキモノニ通常ノ兵ト同ク義

務ヲ負ハシム亦苛刻ナラスヤ若シ同一ノ義務アリトシテ之ヲ取ル

ニ於テハ六千ノ人ハ盡ク之ヲ取り定尺アルモノハ却テ免カル、コ

アルノ恐レアルヘシ其免カル、コノ如キハ行政官ノ處分ニアリト

フルモ法律上ニテハ免カレサルコトナルノ不都合アリ是レ本官ノ

修正ヲ提出スル所以ナリ

○二十番佐野常民

○ル可シ然レモ五尺ニ滿ツルモノハ兵ト爲スノ理ハ戦闘ニ便ナルヲ

以テノミ然レモ若シ新發明アリテ四尺以下ノモノヲ便利ト爲スニ

至ラハ如何必ス長ヲ捨テ短ヲ取ルヘキナリ本官ノ心配ハ別ニ定則

ナキヲ以テ六千ノ短身アラハ盡ク之ヲ取ルヘシト云フコト定尺ニ
滿タサルモハ兵役ヲ免カル、トテ原理ハ之ヲ知ラサルナリ

○十二番河野敏雄 廿番ノ説ハ却テ本案修正ノ旨ニ抵觸スル所アルヲ覺

フ其言ニ若シ不足スルトキハソノ文字ヲ不可トスレモ其理由ハ聊モ
改マリタルコトナシ何トナレハ廿番ハ志願者ヲ置クコトハ初メヨリ主
張セシニアラスヤ且行政官ハ決シテ盡ク六千人ヲ取ルニハ至ラサ
ルヘシト云フト雖モ法律ハ人ヲ恃ムヘキモノニアラス此論ハ廿番
モ常ニ主張スル所ナリ若シ法律ニ掲ケサルコトアラハ行政官ト爭フ
コトヲ得ス修正委員其他ノ議官モ志願者ヲ取ルノ精神ナリ然ラハ分
明ニ之ヲ記スルヲ可トス決シテ實際ニ差支ナキヲ以テ成ヘクハ之
ヲ明文ニ掲クルヲ可トスルナリ

○十四番中島信行 本項ハ法案中ノ肝要ナルモノナリ夫レ徴兵ハ元ヨリ

國家貴重ノモノニシテ且輜重輸卒等ノコトハ始メテ之ヲ置クコトナレ
ハ更ニ大切ナルコトス然レハ之ヲ論決スルニハ須ラク一刀兩斷ト
ナス可シ何ソヤ之ヲ徵募センカ將々志願者ニ取ラシカノ兩者アル
ノミ志願者ノ一方ヲ立ツルノ論ニ於テハ十八番ノ説ハ其意味ノ不
足ヲ補フモノナリ若シ志願者ニテ足ラサルトキハ如何ト云ハ、三
歳ノ兒童モ之ヲ辨スヘシ然ラハ其不足ヲ生シタルトキハト云ハ、
又他ニ論ナキヲ信ス乃チ本案ヲ論決スルハ一刀兩斷ニアリト云フ
所以ナリ本官既ニ本條ヲ可ト定メタル以上ハ只不足ヲ補フノ修正
ヲ保護スルノ術ヲ盡サント欲スルノミ
○外二番馬場素彦 敢テ辨ヲ好ムニアラスト雖モ止ムヲ得スシテ一言セ

○十八番ノ説ハ若シ不足スルトキハト加フルノミニテ其精神ハ全ク本案ト差違ナシ既ニ志願者ヲ取ルトセハ其不足ヲ生スルコトハ委員ニ於テモ屢次之ヲ述ヘタルカ如シ而シテ若シ不足スルトキハ定尺ナキ者ト不具ノモノトニ取ルハ即チ其義務ナリト云ハ、何ソ夫ノ定尺ニ滿ツルノ落籤者ヲハ取ラサルヤ若シ又志願者ノミヲ取ルト爲シカ是亦不可ナリ然レモ前ニ番外一番ヨリ述ヘタル如ク職業ノ便利ニヨリテハ之ヲ取ラサルヲ得ス蓋シ此職業ニヨリテ取ルト爲スハ公平至當トナリ否ヲサレハ實際人ノ用ヲ爲スノ目的ナク單ニ修正案ノ成立スルコトハ却テ難カルヘシ

○廿番佐野常民 今之ヲ若シ不足スルトキハトスルモ行政官ヲ疑ヘハ遂ニ限リナシ何トナレハ定員ナクシテ悉ク六千ハ入用ナリトシテ之

ヲ取ラントスルモ亦爲ス能ハサレハナリ但修正ノ如クナレハ其輕重アルコトハ判然ナリ倘シ疑心ヲ以テ云ハ、不足ヲ補フノ輜重兵幾許ヲ取ルヤノ定則モ亦之アラサルヘカラス故ニ成ルヘクハ義務アルコト爲サントス

○十二番河野敏鐘 番外二番ノ説ハ分明ナリト雖モ不足ノ時ハ何レナリトモ之ヲ取ルト云フハ即チ本官ノ恐ル、所ナリ畢竟法律ハ其文同キモ之ヲ見ルノ方法ハ異ナルニ依リ何レヲ根ト云ヒ何レヲ葉ト云フモ知ルヘカラス故ニ分明ニ根ハ根ト記スヘキノミ今修正説ノ如クセハ不足セサルヲ不足トシ他ノ一方ヨリ取ル等ノ弊ナシト信スルナリ到底十八番ノ修正ノ如クニ定ムルヲ可トス

○廿番佐野常民 本官ノ説ハ本案ニテ差支ナシト云フノミ定尺ニ滿タサ

ルモノモ憫ムヘキモノニアラス然ルヲ義務ヲ帶ハシメサルハ不平均ナリ故ニ定尺ニ滿タサルモノヨリ之ヲ取ルモ妨ケナシト云フノミ決シテ本官ハ定尺ニ滿タサルモノニ義務ヲ免カレシムヘシトスルモノニアラス因テ飢迄本案ヲ主張ス

○議長 十八番ノ修正ニ同意ノモノハ起立セヨ

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ十八番ノ修正ニ決ス

書記官 本田親雄 左ノ案ヲ朗讀ス

第一項 輜重輸卒トシテ徵集スル者ハ六ヶ月間常備軍役ニ服

セシメ役終レハ預備軍ニ編入シ五年六ヶ月ノ後更ニ

後備軍ニ編入ス

○八番 大給恒三 修正説ヲ提出セシ「六ヶ月間常備軍役ニ服セシメ云々」トアル「役」ノ上ニ「實」ノ一字ヲ加フ可シ何トナレハ六箇月間病氣等ニテ一切服役セサルモノアルヘキヲ以テナリ

○議長 八番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス本案ニ同意ノモノ

ハ起立セヨ

○議長 起立者十八人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 本田親雄 左ノ案ヲ朗讀ス

第二項 看病卒並ニ職工トシテ徵集スル者ハ服役諸兵ト異ナ

○議長 本案ニ同意ノモノハ起立セヨ

○議長 本案ニ同意ノモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 木田親雄 左ノ案ヲ朗讀ス

第四條 常備軍在營中ハ定額ノ日給ヲ與フ其他食料服類共官給タ

ルヘシ

○議長 本案ニ同意ノモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 木田親雄 左ノ案ヲ朗讀ス

第五條 預備軍ハ常備軍三ヶ年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制シ

更ニ三ヶ年ノ役ニ服セシメ常ニ家居シテ産業ヲ營マシム而シテ

全員悉起立

○議長 本案ニ同意ノモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 木田親雄 左ノ案ヲ朗讀ス

第六條 後備軍ハ預備軍三ヶ年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制シ

更ニ四ヶ年ノ役ニ服セシメ預備軍ニ次テ之ヲ召集スル者ナリ故

○議長 本案ニ同意ノモノハ起立セヨ

○議長 本案ニ同意ノモノハ起立セヨ

○ 全員悉起立

○ 議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官

本田親雄

左ノ案ヲ朗讀ス

第七條

徴兵服役已ニ其期限ニ滿ル者ト雖モ戰時ハ勿論非常ノ事故アル時ハ其期限ヲ延スコアルヘシ

○ 議長 本案ニ同意ノモノハ起立セヨ

全員悉起立

○ 議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官

本田親雄

左ノ案ヲ朗讀ス

第八條 國民軍ハ全國ノ男子十七歳ヨリ四十歳迄ノ人員ヲ兵籍ニ

載セ置キ全國大擧ノ役アルニ當リ後備軍ニ次テ時機ニ從ヒ隊伍

ニ編制シ以テ國內ノ守衛ニ充ル者ナリ

○ 外 一番 渡 正

本條國民軍云々ハ原案ト本案トノ間ニ著シキ差違アリ

且頗ル重大ナル事項タルヲ以テ反復之ヲ討論セサルヘカラス本

案ノ如クアレハ假令如何ナル場合アルモ國民軍ハ國內ノ守衛ニ止

マリテ之ヲ海外ニ出スコヲ得サルナリ若シ隣國ト和親破レ一旦事

アルニ際シ後備預備ハ盡ク之ヲ出シタリトモ漸ク七萬ノ兵ナリ之

ニ加ヘテ免役者等ヲ出スモ亦八九萬ニ過サル可シ此兵ヲ以テ遠ク

外國ニ出シ勝算ヲ圖ルコヲ得ヘキカ日本ノ戸數幅員ニ比シテ此ノ

如キハ豈不足ナラスヤ佛國ハ三十萬ノ常備アリ後備預備ヲ合セハ

必ス百萬ニ達スヘシ因テ日本ニテモ國民軍ヲ國內ニ止ムルハ策ノ

不可ナルモノトス然レモ假令之ヲ海外ニ出スモ必ス戰鬪線ニ出サ

シト云フニアラス乃チ略取城内等ノ守衛ニ備フルモナリ且戸主ニモアラサル三十歳以上ノ者ハ已ニ後備預備ヲ經過シテ國民軍ニ入ルモノナレハ熟練壯強ノ兵ナリ然ルヲ只國內守衛ニ限ルハ兵力ノ全力ヲ殺クモノトス因テ國內ノ守衛ヲ五字ヲ刪ラシコトヲ望ム

○十八番出津田

當惑ノ至リナレ且又重大ナルコトナレハ爰ニ一言セン抑國民軍ノ名目ニシテ兵ヲ外國ニ進ムルコトハ各國共ニ其例ナシ且之ヲ國內ニ用フルモ亦稀有ノコトナリ若シ番外一番ノ言ノ如クセント欲セ豈常備後備預備國民軍等ヲ區別アルヲ要センヤ名ハ外國ニ出ストスルモ日本ニテ之ヲ使フハ日本ノ法ナリト云ハンカ決シテ否ラズ縱ヒ事アリトモ兵數十萬ニ限ラハ即チ十萬ノ國力ナリ是レ其國力ヲ圖

ツテ爲スコニシテ國民軍ヲ出シテ戰フハ兵制ニ問フモ國力ニ省ミルモ決シテアルヘカラサルコトナリ然ルニ教ヘサル民ヲ以テ戰ハシムルヲ目的トシテ戰フカ如キハ萬有ルヘカラサルノ理ナリ萬一此ノ如キ目的ヲ以テ國內ノ守衛ノ字ヲ刪ルト云フハ實ニ驚タヘキノ發言且困難ノ事ニシテ十八番ハ殆ト説明ノ言ヲ撰ムニ苦シムナリ只言ハシ寧ロ名目ヲ付セス勝手ニ爲スコトスト

○番外二番馬場素彦

來スヲ以テ之ヲ刪ルヘキヲ述ヘタルニ十八番議官ヨリ駁議アリ故ニ本官ハ更ニ番外一番ノ餘論ヲ繼カン抑佛ノ兵制ノ如キニ途ニ分別アル國民軍ナラハ可ナレ且日本ノ如キ十萬ヲ限ルノ兵ノミ例ヘハ萬一支那トノ交際破レ此兵ヲ以テ攻戰ヲ爲サンニ先ツ福建ヲ攻

三十一
四十四
メシトシ台湾厦門ヲ畧取シ而シテ福建ニ入ルルハ既ニ畧取シタル
地ヲ守ルニ當リ之ガ爲メニ少クモ五萬ノ兵ヲ要スヘシ果シテ
然ラハ餘兵五萬ヲ以テ福建ヲ攻メサルヘカラス然ルニ國民軍タル
モノハ戶主タリ又ハ妻子アリテ兵外ノ義務ヲ負フモノナレハ之ヲ
兵トスル太タ不經濟ナリト雖モ其畧取セシ地ヲ守ルカ爲ニ兵ヲ分
カテハ目的ヲ達スルコトヲ得サルニ因リ大ニ兵數ニ不足ヲ生スルヲ
以テ巴ムヲ得ス國民軍ヲ五外國ニ出サハル可カラサルノ場合アリ
又現行ノ徵兵令ニモ國內守衛ノ字ヲ掲ケス之レ國外ニ出スコトヲ得
ルノ性質ヲ有スルモノナリ又國民軍ニ付テ外國ノ例ヲ引テ論アレ
ル國民軍ハ日本ノ字ナリ外國ノコトヲ云ハ、少シク意味ノ差違アル
ヘシ本案ノ如ク國外ニ用ヒラレサルコトナリテハ太タ不都合ナル

ヲ以テ之ヲ刪ラシコトヲ希望ス
○十四番中島番外ニ番モ亦國內ノ守衛ノ字ヲ刪ルヘシト云ヘル本
官ハ之ヲ否トス元來軍ハ兵ノ多數ノミヲ以テ勝算ヲ計ルモノニア
ラス今兵ヲ興シテ國民軍ヲ外國ニ出スノ説ハ尤モ驚クヘキコトス
夫レ國民軍ハ十七歳ヨリ四十歳マテノモノヲ以テ團結セルモノニ
シテ實ニ國ニ汚辱ヲ取りタル能ハ外ハ之ヲ用フヘキモノニアラス
畢竟之ヲ此ニ掲クルモ殆ト無用ト思フ程ノコトナリ蓋シ國民軍ヲ起
シテ戰ヲ開クヘキ目的ハ何事メヤ日本ノ景況ヲ觀ルニ大兵ヲ舉テ
外征ヲ爲スヘキモノニアラス我海岸ニハ未タ一砲台アルヲ見ス況
ヤ又銃器ヲ制スルコトヲ知ラス一昨年西南ニ事アルモ器械彈藥ニ不
足セルガ如キニオイテヤ然ルヲ國民軍ヲ擧テ外國ヲ取ルト云フ

ハ徒ニ夢ヲ談スルト一般ナリ又外國ヨリ攻撃セラレテ國民軍ヲ使
 フニ至ラハ國ハ殆ト滅亡ニ近キノミ抑第三十七條ニハ平時免役ニ
 屬シ第五十條及ヒ第五十二條但書ニ當ル者ハ第一預備徵兵ト爲シ
 第二十九條第三十六條ニ當ル者ハ第二預備徵兵ト爲シ各年齡三十
 歳迄ハ戰時ニ當リ後備軍ヲ召集シ尙兵員ヲ要スル時ハ其順序ニ從
 ヒ臨時召集シテ隊伍ニ編制シ或ハ輜重運輸ノ役ニ供スルコアルヘ
 シトアリ若シ國民軍ヲ預備徵兵ノ前ニ用ユルカ如クナラハ却テ種
 ヤノ名目ヲ立テサルニ如カス抑外征ヲ爲スニハ先ツ其根據ヲ堅ク
 セサルヘカラス其根據ナクシテ輕舉セハ不虞ノ攻撃アルヲ如何セ
 シ必ス守衛スルコト能ハサルヘシ豈復タ人ノ國ヲ攻ルヲ期ス可ケン
 ヤ故ニ國民軍ヲ出サンヨリハ預備徵兵ヲ爲スヘキナリ國民軍八十

七歳ヨリ四十歳マテ一人モ免カレサルモンナリ此ノ如クニ錯雜セ
 ル徵兵令ナラハ寧ロ之レナキニ如カス況ヤ現行ノ令ニハ外國ニ出
 スコトヲ記セザルヲヤ我邦兵力備ハリタルヤ曰否器械糧食備ハリタ
 ルヤ曰タ未シ此ノ如クニシテ猶外國出兵ノ事ヲ談スヘキヤ本官ハ
 其可ナルヲ知ラサルナリ

○甘四番細川潤次郎本官ハ當初ヨリ沈黙シタレトモ内閣委員ノ國內ノ
 守衛ノ文字ヲ刪ラント欲スル一段ニ至リテハ茲ニ一言シテ十四番
 ノ餘論ヲ述ヘントス抑國民軍ハ多分ハ家計ヲ修メ妻子ヲ蓄フルモ
 ノナリ故ニ萬一ノ時ニハ之ヲ用ヒサルヲ得サルモ其用ヲ爲スコハ
 古シ蒙古襲來等ノ時ノ如キアラハ其財産ヲ護シ妻子ヲ保シ一身ヲ
 守ルカ爲メニ此要害ヲ守リ又ハ彼糧食ヲ輸スヘキモノトミ而シテ

之ヲ輸スルモ遠キニ及ハス之ヲ守ルモ木石ヲ以テスヘキコアルヘ
 シ斯時ニ方リテハ當ニ愛國心ヨリ生發スルニミナラス即チ國民ノ
 爲メニ爲ストニシテ始メテ國民軍ノ本色ヲ現スヘキナリ然レハ四
 國ハ四國奥羽ハ奥羽ニ其地方ニ動かストナラハ猶可ナリ下雖モ固
 守之ヲ外征ニ用フヘキモノニナラサルナリ且平生訓練ニ熟知セ
 ○ス器械ヲ使用ニ慣レス斯ノ如ク教ヘサルノ民ヲ以テ戰フハ是レ之
 ヲ暴スルモノナリ然ルニ内閣委員ノ曰ク日本ハ兵員足ラサルナリ
 故ニ之ヲ用フト既ニ十四番ノ説ニモ云フ如ク物同シカラサルハ
 其情ニシテ如何セン日本ノ國力ハ此ノ如キニ又番外ハ佛ノ例ヲ
 引テ三十萬アリト云フモ是歐州各國虎視耽々ノ中ニアルヲ以テ然
 ヲサルヲ得サルナリ若シ十萬ニテ足ラス之ヲ十五萬ト爲スモ外國

○ニ二十萬アリ又之ニ倣フテ二十萬ト爲スモ更ニ外國キテ三十萬ヲ
 用フハ遂ニ負ヲ取ルヘキナリ其引證スル所ノ支那ノ如キ近時ハ之
 ヲ詳カニセサルモ夫ノ康熙乾隆ノ間ハ常備兵八十萬アリト云フ其
 八十萬ハ兵ニ對シ何ノ策ヲ以テ破ルヘキヤ今日本三十萬アリ之ヲ
 倍トナスモ八十萬ニ比スルハ猶三十萬ノ不足ナリ之ニ要スルニ兵
 ○兇器戰ハ逆德ナレハ交際上戰ハサルニ如カス止ムコトヲ得スシテ
 戰フトキハ一杓ノ器ハ一杓ノ水ヲ容ルト云フ外ナシ若シ之ヲ犯
 ス能ハ却テ大ナル禍ヲ開クヘシ又止ムヲ得スシテ守戰ニ出テス攻
 戰ニ出テ本官ヲ以テ軍略ヲ獻スルキハ攻戰ハ多ク軍艦ヲ要スルヲ
 以テ守戰ト爲スノ利ニ如カストス其攻戰ノキ福建ニ入ルニ台灣ト
 厦門トニ兵ヲ分カダサルヘカラスト云フハ即チ戰略ヲ得サルモノ

トス斯ル軍談ハ蓋シ議場ニ要ナシト雖モ少兵ニシテ苦ムトナラハ直隸ヨリ入ルカ其他脆弱又ハ空虚ノ處ニ用ヒテ可ナリ若シ委員ノ言ノ如クシテ國民軍ヲ外征ニ及ストセハ日本ハ實ニ空虚トナルヘシ其時ニ及ンテ若シ他ノ虎狼ノ國ヨリ新構ノ甲鐵艦ヲ日本海岸ニ廻サハ實ニ困難ナラスヤ故ニ本官ハ此時ニ當リテハ兵ヲ廈門ト台灣トニ置カスシテ却テ日本ノ空虚ノ地ニ備ヘントス究竟佛ノ如キ大兵ハ備フヘカラス又支那ハ縱ヒ弱キニセヨ他ニ魯西亞アリ獨逸アリ容易ニ戰フ可ラサレハ日本ノ力ハ限リ有リト念ヲ絶チ外征ヲ中止セント欲ス假令之ヲ驅テ外國ニ出ストスルモ支那ハ暫ク置キ萬國ヲ横行スルハ爲スヲ得サレハナリ

○外番ニ番渡正「國內ノ守衛」字ヲ刪ルコトヲ陳述セシ二十四番ヨリ駁

議アリ又廿四番ノ喋々ハ全ク兵法講義ニ止リ本條ニ於テハ要用ナラストス只其要點タル所ハ良シヤ國民軍ヲ出スモ支那ノ八十萬ニ敵セス又佛ノ大兵ヲ養フノ力ナシ仍テ刪ルヘカラスト云フニ過キ

○外番外一番ハ決シテ佛ノ如クスヘシト云フニアラス又支那ヲ攻撃スヘシト云フニアラス元ヨリ兵ヲ養フハ國ヲ護スルニ在テ外國ヲ侵スガ爲メニアラサルナリ廿四番ノ説ノ如ク我財産我妻子ヲ護スルモノニシテ外寇アルハ若シ其機會ニ乘シテ止ムコトヲ得ス結局ノ地ヲ踏マサルヲ得サルハ萬國普通ノ道理ナリ假令支那ナリ朝鮮ナリ其進撃ス時ニ至リテ長崎名古屋ヲ限ルハ兵力ヲ限ルト云フヘシ假令ハ盜賊ノ逃クルヲ進テ門ヲ出レハ之ヲ追ハサルニ同シ國ニ兵ナキハ賊ノ其家奴婢ノ數ヲ算スルニ同シ我豈此言ヲ爲シヤ又十四

番ノ説ニ預備徴兵前ニ國民軍ヲ出スハ不可ナリト云フモ本案ニヨ
 リハ立案既ニ之ヲ載セ後備軍ニ次テ時機ニ從フトアレハ國民軍ヨ
 リ熟練ヲ兵ヲ出サ、ルヲ得ヌ既ニ明文アリ又訓練ヲモ爲サ、ルモ
 シヲ暴ニ驅出ス、主義ニ非ス國民軍中ニ恃ムハキハ老練ノ兵ヲミ
 ヲ要トス敢テ尋常戸主ノ如キモ、ヲ要セス乃チ其老練ノ兵ヲ出ス
 ヲ得ハ足レルト云フ、ミ因テ國內ノ守衛ノ文字ヲ削ルモ不適當ノ
 ナナシトス、ニ又云、兵ヲ出スハ、國ヲ護ルニ必要ナリ、故ニ、
 ○議長 本案ニ同意ヲモ、ハ起立セヨ、ト云、又云、又云、
 ○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ今日ハ會議ヲ茲ニ止、明日
 例刻ヨリ開議スヘシ散會セヨ、ト云、

午後第三時二分閉場

元老院會議筆記明治十二年九月十七日
 議事
 第一 議事
 第二 議事
 第三 議事
 第四 議事
 第五 議事
 第六 議事
 第七 議事
 第八 議事
 第九 議事
 第十 議事
 第十一 議事
 第十二 議事
 第十三 議事
 第十四 議事
 第十五 議事
 第十六 議事
 第十七 議事
 第十八 議事
 第十九 議事
 第二十 議事
 第二十一 議事
 第二十二 議事
 第二十三 議事
 第二十四 議事
 第二十五 議事
 第二十六 議事
 第二十七 議事
 第二十八 議事
 第二十九 議事
 第三十 議事
 第三十一 議事
 第三十二 議事
 第三十三 議事
 第三十四 議事
 第三十五 議事
 第三十六 議事
 第三十七 議事
 第三十八 議事
 第三十九 議事
 第四十 議事
 第四十一 議事
 第四十二 議事
 第四十三 議事
 第四十四 議事
 第四十五 議事
 第四十六 議事
 第四十七 議事
 第四十八 議事
 第四十九 議事
 第五十 議事
 第五十一 議事
 第五十二 議事
 第五十三 議事
 第五十四 議事
 第五十五 議事
 第五十六 議事
 第五十七 議事
 第五十八 議事
 第五十九 議事
 第六十 議事
 第六十一 議事
 第六十二 議事
 第六十三 議事
 第六十四 議事
 第六十五 議事
 第六十六 議事
 第六十七 議事
 第六十八 議事
 第六十九 議事
 第七十 議事
 第七十一 議事
 第七十二 議事
 第七十三 議事
 第七十四 議事
 第七十五 議事
 第七十六 議事
 第七十七 議事
 第七十八 議事
 第七十九 議事
 第八十 議事
 第八十一 議事
 第八十二 議事
 第八十三 議事
 第八十四 議事
 第八十五 議事
 第八十六 議事
 第八十七 議事
 第八十八 議事
 第八十九 議事
 第九十 議事
 第九十一 議事
 第九十二 議事
 第九十三 議事
 第九十四 議事
 第九十五 議事
 第九十六 議事
 第九十七 議事
 第九十八 議事
 第九十九 議事
 第一百 議事

元老院會議筆記明治十二年九月十七日

○第四百十六號議按徵兵令及近衛兵編制改正ノ續布告按第二讀會九月十六日續

議長城王仁

二十番

出席議員十番

十番東久世通禧

主番伊集院兼寛

四番福羽 美靜

五番秋月 種樹

六番天久保一翁

七番齋藤 利行

八番大給 新恒

九番	黒田 清綱
十一番	山口 尚芳
十二番	河野 敏謙
十四番	中島 信行
十五番	津田 眞道
十七番	楠田 英世
十八番	津田 出
十九番	河田 景與
二十番	佐野 常民
廿三番	柳原 前光
廿四番	細川 潤次郎

○第百四十六號議按第二讀會ノ續キヲ開ク例ニ從ヒ發議セヨ

議長

○議長 第百四十六號議按第二讀會ノ續キヲ開ク例ニ從ヒ發議セヨ

書記官 城多董 左ノ案ヲ朗讀ス

○議長 第百四十六號議按第二讀會ノ續キヲ開ク例ニ從ヒ發議セヨ

午前第九時三十分開場

○議長 第百四十六號議按第二讀會ノ續キヲ開ク例ニ從ヒ發議セヨ

第二章 徴兵區區域

第九條 凡全國ヲ別ツテ七大徴兵區トシ各軍管ノ區域ニ從フ者之ヲ軍管徴兵區トス軍管ニ包轄スル師管ノ區域ニ從フ者之ヲ師管徴兵區トシ師管ニ包轄スル旅管ノ區域ニ從フ者之ヲ旅管徴兵區

上シ旅管ニ包轄スル聯隊區域ニ從フ者之ヲ聯隊徵兵區トシ聯隊區域ニ包轄スル大隊區域ニ從フ者之ヲ大隊徵兵區トシ大隊區域ニ包轄スル中隊區域ニ從フ者之ヲ中隊徵兵區トス然レテ旅管ニ從フ者之ヲ旅管以下ノ徵兵區ハ現今未タ之ヲ設置セス故ニ姑ク使府縣ノ管地ニ從ヒ之ヲ使府縣徵兵區トス

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ
起立者十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス
書記官城多董 代理 左ノ按ヲ朗讀ス
第十條 使府縣徵兵區ハ一使府縣ヲ一徵兵區ト爲ス下雖レ其管地兩師管ニ跨ル者ハ每師管ニ一徵兵區ヲ設置スル者トス

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ
起立者十九人

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス
書記官城多董 代理 左ノ按ヲ朗讀ス

第十一條 第七軍管ノ徵兵ハ未タ全部ニ行ハサルヲ以テ姑ク之ヲ第二軍管ノ管轄ニ屬ス

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ
起立者十九人

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス
書記官城多董 代理 左ノ按ヲ朗讀ス

○二十三番柳原前光 議論ナキ所ヲ一々起立セシムルハ頗ル煩ハシ仍テ以下毎三箇條連帶シテ決ヲ取ラレシヲ建議ス

○議長 二十三番ノ建議ヲ可トスルモノハ起立セヨ

○起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ三箇條ヲ連帶シテ決ヲ取ルヘシ

書記官城多董 代理左ノ按ヲ朗讀ス

第三章 徴兵官員及ヒ其職掌

第十二條 徴兵使

陸軍佐官一人之ニ任ス使府縣ニ出張シ使府縣徴兵事務長ト議シ

徴兵ノ事務ヲ掌ル

但時宜ニ由テハ副使ヲ遣シ代理セシム

第十三條 徴兵副使

陸軍尉官ヲ以テ之ニ任ス人員ハ概ネ一師管徴兵區ニ二人或ハ三

人トス正使ヲ佐ケ使府縣徴兵事務官及ヒ徴兵副醫官ト共ニ徴兵
検査所ヲ巡行シ徴兵検査抽籤等ノ事務ヲ掌ル

第十四條 徴兵醫官

陸軍々醫一人之ニ任ス徴兵使ニ從ヒ兵丁ノ身材骨格兵役ニ適ス

ルヤ否ヲ検査スル事ヲ掌ル

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官城多董 代理左ノ按ヲ朗讀ス

第十五條 徴兵副醫官

陸軍々醫副以下試補以上ヲ以テ之ニ任ス人員ハ概ネ一師管徴兵

區ニ三人或ハ四人トシ徵兵副使ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行ス職掌
徵兵醫官ニ同シ

第十六條 徵兵事務官

○後備軍使府縣駐在官一人之ニ任ス使府縣徵兵事務官ト共ニ郡區
ヲ巡行シ徵兵下検査ノ事ヲ掌リ又徵兵署ニ出頭シ同署ノ事務ヲ

補助ス

第十七條 徵兵書記

陸軍下士或ハ軍屬十等以下十七等迄ノ者ヲ以テ之ニ任ス人員ハ
二人或ハ三人トス徵兵使ノ諸記録ヲ掌ル

○議長ヲ發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長ト全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官 城多並 代理 左ノ按ヲ朗讀ス

第十八條 使府縣徵兵事務長

地方長官或ハ書記官ノ内一人之ニ任ス管内徵兵ノ事務ヲ掌ル

第十九條 使府縣徵兵事務官

使府縣屬官ヲ以テ之ニ任ス人員ハ概テ徵兵副使ノ數ニ準ス徵兵

○副使ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行シ使府縣徵兵事務長ノ職掌ヲ補助

シ又徵兵事務官ト共ニ郡區ヲ巡行シ徵兵下検査ノ事ヲ掌ル

第二十條 郡區徵兵事務官

郡區長ヲ以テ之ニ任ス人員ハ一郡區ニ一人トス徵兵ノ事ニ付キ
公文ヲ布達シ民情ヲ上申シ又其郡區内徵兵取調ノ事ヲ掌ル

但郡區長已ムヲ得サル事故アルハ郡區書記ヲ以テ代理セシ

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官城多董代理 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十一條 地方徴兵醫官

地方長官ノ撰ヲ以テ之ヲ命ス人員ハ概ネ徴兵八十名乃至百名ニ

一人トス徴兵身體ノ下検査ヲナシ又徴兵醫官ノ指揮ニ從ヒ検査

ノ事件ヲ記録ス

第二十二條 筆生

地方長官ノ撰ヲ以テ之ヲ命ス人員ハ概ネ一検査所ニ二人トス檢

査抽籤等ノ件々ヲ記録シ又下検査所筆記ノ事ヲ掌ル

第二十三條 徴兵使使府縣徴兵事務長及ヒ徴兵醫官ハ使府縣徴兵

署ニ出頭シ徴兵副使徴兵副醫官及ヒ使府縣徴兵事務官等ハ分派

シテ各徴兵検査所ヲ巡行スルモノトス

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官城多董代理 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十四條 徴兵使巡行ハ二月十五日ヨリ始メ第三章中ニ掲クル

所ノ陸軍官員一行トナリ使府縣ニ出張シ地方ノ諸官ト合議シ便

宜ノ地ニ於テ徵兵署ヲ開設シ總テ徵兵ニ關スル事務ヲ管理シ四月十日ヲ以テ復命スル者トス十五日ヨリ徵兵ニ關スル事務中ニ關スル

第二十五條 徵兵使ハ使府縣ヨリ所領臺へ出シタル徵集名簿ヲ點檢

シ其使府縣ノ徵兵年齡相當ノ人員ニ應シ本年徵集スヘキ常備補充ノ人員ヲ配當シ又除役免役等ノ箇條書ヲ調査ス

第二十六條 徵兵諸官ハ本年ノ徵兵事務竣レハ悉ク其職ヲ解ク者トス

○議長ニ發議オシ本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ其事務官等ハ代議士ニ全員悉起立ス

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス事場ノ事ニ關スル書記官城多董代理 左ノ按ヲ朗讀ス

第四章 除役免役及七徵集猶豫

第二十七條 左ニ掲ル者ハ終身兵役ヲ除ス

第一項 廢疾或ハ不具ニシテ陸軍醫官檢査規則ニ照シ兵役

ニ堪ユヘカラサル徵候アル者

第二項 重罪ノ刑ニ處セラレタル者

第二十八條 左ニ掲ル者ハ國民軍ノ外兵役ヲ免ズ

第一項 戸主

但徵兵年齡以前ニ分家シ又ハ新々分家シタル

女戸主ニ入婿シ或ハ絶家ヲ再興シタル戸主ハ此

限ニ非ス

第二項 獨子嗣子 獨孫承祖孫

第三項 年_レ齡五十歲以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

但長男又ハ長孫ヲ分家セシメ或ハ他家ノ養子未

家ノ故ヲ以テ已ムヲ得サル者ヲ除クト爲シ又ハ絶家ヲ再興セシメ

或ハ新タニ分家シタル女戸主ニ入婿セシメ其二

三男二三孫ヲ以テ徵兵年_レ齡以前ニ更ニ嗣子或ハ

承祖ノ孫ト爲セシ者ハ此限ニ非ス

第四項 年_レ齡五十歲以上ニシテ嗣子ナキ者ノ養子嗣或ハ相

續人

但隱居後別家シテ特ニ嗣子或ハ相續人ヲ置ク者

ハ此限ニ非ス

第五項 年_レ齡五十歲未滿ト雖モ癡疾又ハ不具ニシテ産業ヲ

營ムコ能ハサル者ノ嗣子承祖ノ孫及ヒ養子嗣或ハ

相續人

第六項 官吏別任以上及教導職權訓導以上并ニ戸長

第七項 府縣會ノ議長及ヒ議員

第八項 公立使府縣ノ設立ニ係ル以下學校教員及ヒ文部省

所轄官立學校教員

第二十九條 左ニ掲ル者ハ平時ニ於テ兵役ヲ免ス

第一項 年_レ齡五十歲未滿ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

但長男又ハ長孫ヲ分家セシメ或ハ他家ノ養子本

家ノ故ヲ以テ已ムヲ得サル者ヲ除クト爲シ又ハ絶家ヲ再興セシメ

或ハ新タニ分家シタル女戸主ニ入婿セシメ其二

三男二三孫ヲ以テ徵兵年齡以前ニ更ニ嗣子或ハ承祖ノ孫ト爲セシ者ハ此限ニ非ス

第二項

陸海軍生徒并ニ兵器局及ヒ造船所定雇職工

第三項

陸海軍常備在役中死没又ハ公務ニ因リ疾病或ハ傷

但豫備軍又ハ後備軍服役中公務ニ起因シタル疾

第四項

公立師範學校ニ於テ卒業ノ者

第五項

公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ卒業ノ者

第六項

文部省所轄官立學校及ヒ其他ノ省使ニ屬スル官立

第七項

學校ニ於テ卒業ノ者

第八項

但官立師範學校附屬小學校ノ生徒ハ此限ニ非ス

第九項

外國ニ留學シテ一ケ年以上ノ學科ヲ終リタル證書

第十項

海員試験免狀規則ニ遵ヒ船長運轉手及ヒ機關手

第十一項

免狀ヲ所持スル者

第十二項

海員雇入雇止規則ニ遵ヒ三年以上海上ニ在テ水火

第十三項

夫ノ業ヲ執リタルヲ證明スル者

第十四項

特別ノ建議ヲ爲サントス既ニ二十三番ノ建議ニ

第十五項

ヨリ三條連帶シテ決議スルヲ定マルト雖モ第四章ハ重大ノ事ヲ

第十六項

含蓄シ且其分項ニモ各々一條ノカアルモノアリ仍テ逐條決議アラ

第十七項

シテ希望ス

第十八項

但官立師範學校附屬小學校ノ生徒ハ此限ニ非ス

第十九項

外國ニ留學シテ一ケ年以上ノ學科ヲ終リタル證書

第二十項

海員試験免狀規則ニ遵ヒ船長運轉手及ヒ機關手

第二十一項

免狀ヲ所持スル者

第二十二項

海員雇入雇止規則ニ遵ヒ三年以上海上ニ在テ水火

第二十三項

夫ノ業ヲ執リタルヲ證明スル者

第二十四項

特別ノ建議ヲ爲サントス既ニ二十三番ノ建議ニ

第二十五項

ヨリ三條連帶シテ決議スルヲ定マルト雖モ第四章ハ重大ノ事ヲ

第二十六項

含蓄シ且其分項ニモ各々一條ノカアルモノアリ仍テ逐條決議アラ

第二十七項

シテ希望ス

第二十八項

但官立師範學校附屬小學校ノ生徒ハ此限ニ非ス

第二十九項

外國ニ留學シテ一ケ年以上ノ學科ヲ終リタル證書

第三十項

海員試験免狀規則ニ遵ヒ船長運轉手及ヒ機關手

第三十一項

免狀ヲ所持スル者

第三十二項

海員雇入雇止規則ニ遵ヒ三年以上海上ニ在テ水火

○二十三番 柳原前光 二十四番ニ同意ス本官ノ向ニ建議セシハ概シテ第三章ノコヲ連讀決議シ其議論アル所ハ格別ナリト云フフ意ヲ以テ述ヘタルナリ仍テ二十四番ヲ賛成ス

○議長 廿四番ノ建議ヲ可トスル者ハ起立セヨニ二十三番ノ基調ニ起立者十人 夫々ノ案ヲ陳述シテ其旨ヲ宣明ス

○議長 多數ナルヲ以テ以下逐條議ニ決ス可シ以上將士ニ示スルハアリ原按ニハ懲役一年以上及國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者ト

○二十三番 柳原前光 第二十七條第二項ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者トラレタル者トアリ原來重罪ノ意義ハ其分界未タ判然ナラス唯司法卿ヨリ裁判官ニ達シタル書類ニ載スルヲ見ルノミ然ルヲ今明カニ法律ニ掲クルハ何ゾヤ敢テ修正委員ノ答辯ヲ乞フ

○十四番 中島信行 若シ懲役一年以上ト記スレハ兵役ヲ避ル爲メ故ラニ

罪ヲ犯スモズアラシコヲ恐レ單ニ重罪ト記シタルナラ蓋シ重罪ノ字タルヤ其意義明瞭ナラサルカ如キモ裁判通則ニ五年以上ト罪ニ該ルモノヲ云フトアリ本官ハ其意ヲ以テ之ヲ記セリ

○二十四番 細川調次郎 原按ノ如ク懲役一年以上及國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者ト記スレハ事分明ナレトモ人民ノ忌避心ヨリ故ラニ罪ヲ犯スモノアランコヲ恐レ本按ノ如ク修正セリ實

ニ言フニ忍ビサル事ナルモ間アレハ之ヲ言ハサルヲ得ス餘ハ十四番ノ説明ノ如ク言フニ懲役五年以上ト記スレハ二十三番ノ同義ニ

○二十三番 柳原前光 十四番ハ重罪ノ字ハ裁判通則ニ出テ懲役五年以上ニ該ルト言フ已ニ之アレハ亦不可ナキカ如キモ未タ十分ナリトス

○ヤト爲スモ亦不服ナリ何トナレハ修正委員ノ説ノ如ク懲役一年ヲ
 ○以テ終身ノ兵役ヲ免カルコトセハ故クニ其罪ヲ犯スモノアルハ
 更ニ喋々ヲ要セサルナリ十二番ノ説ハ今日ノ徵兵令ニ適セス仍テ
 本官ハ第三讀會ニ修正説ヲ提出セントシ爰ニ辯明ヲ要セサルナリ
 ○三十番佐野十四番ノ説ノ如ク從前ハ忌避者僅クナリシモ明治八
 年ヨリ同十一年ニ至ル迄四年間ニシテ既ニ戸主六萬ヲ増加セリ資
 カアリテ戸數ノ増殖スルハ國ノ爲メニ太々賀スヘキコナレト此ノ
 如キハ只兵役ヲ忌避スルカ爲メニスルモノニシテ實ニ嘆スヘシ仍
 テ本按以テ之ヲ塞ケハ庶幾クハ今後此弊ヲ一洗スヘシ畢竟兵役ハ
 議員選舉ト同ク民權ニ關スルコト爲スハ美ハ固ヨリ美ナレトモ現
 狀實ニ云フニ忍ヒサルコトアリ若シ懲役一年以上及國事犯禁獄十年

以上云々トシ人民之ヲ忌避スルモヲナキニ至ラハ本官ハ之ヲ喜フ

- ヘキモ未ダ俄カニ信スル能ハサルナリ
- 十二番河野三十番ノ説ハ寧ロ本項ヲ刪除セント欲スルモノ、如
 シ其説ヤ之ヲ五年以上ト爲サハ四年ノ罪ニ該ル迄ハ盜賊ヲ爲スモ
 榮譽ヲ害セスト云フニ同シ實ニ怪シムヘシ假令三年内ノ罪ニ該ル
 モ盜賊ヲ爲スカ如キハ汚辱ナリ之ニ反シテ國事犯ハ五年以上ノ罪
 ニ該ルモ敢テ耻辱ニハアラサルモ、アリ若シ單ニ五年云々トセハ
 寧ロ刪除シテ何人ヲモ徵募スルコト爲スヘシ然リト雖モ少ク名譽
 ヲ存ストセハ一年以上ニテ足レリ此ノ如クスルモ故ラニ罪ヲ犯シ
 不具者トナルカ如キ影響ハ生セサルヘシ到底下付原按ノ如クスル
 ○ヲ可トスニ番ノ説ハ

○議長 十二番ノ説ヲ可トスルモノハ起立セヨ

起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ十三番ノ説ヲ廢棄シ本按ニ決ス

○四番福羽美静 二十八條中ノ六項及八項ニ修正ノ意見アリ連帶シテ之ヲ論スレハ混雜スヘキニ仍リ修正説ヲ提出セシ所其項迄ノ決議ト爲サレンコヲ建議ス

○議長 四番ノ説ニ同意ノモノハ起立セヨ

起立者十人

○議長 多數ナルヲ以テ四番ノ説ニ決ス

○二十四番細川潤次郎 本官ノ建議ハ變體ナレトモ第七第八ノ兩項ニ係リ委員ノ職掌ヨリ各議官ニ告ケ以テ誤解且質問ノ煩オカラシメン

トス第七項ハ全ク本官等ノ粗漏ヨリ出テ無用ノモノナリ何トナレ

ハ府縣會規則ニ滿二十五歳以上ニシテ云々トアレハ是レ己ニ徴兵年齢ヲ經過シタルモノナレハ該項ハ刪ルヲ可トス又第八項使府縣

ノ設立ニ係ル云々ノ挿注ハ第二十九條第四項公立ノ下ニ挿入スヘキモノナリ是レ本官ノ調査ニ失シタルモノナレハ豫メ此ニ之ヲ正

○議長 二十四番ノ建議ニ同意ノモノハ起立セヨ

○議長 全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ二十四番ノ建議ニ決シ第七項ハ廢棄第

八項ノ註ハ第二十九條第四項ニ移スヘシ

○四番福羽美静 第六項ト第八項ニ修正説ヲサダレトモ二十四番ノ説明

○ニテ全ク了解シタレバ贅セス但第六項ニ官吏判任及教導職權訓導以上并ニ戸長トアリ原按第二十七條ノ第七項ニハ官吏及教導職試補以上ノ者但準官吏及等外吏ハ此例ニ非ストアリ然ルニ原按ニヨレハ試補以上ヲ免スルナレトモ本按ハ試補ヲ免セサルコトセリ抑
 ○試補ハ其管長ヨリ命スルモノニシテ判任以下ナレトモ原按ニ之ヲ免スルコト爲シタルハ曾テ試補以上ハ僧侶ト見認云々ノ布告アリタルニ由ルナルヘシ是蓋シ僧侶ニハ兵器ヲ執ラシメサルノ意ナラシカ然レモ神道ノ試補ハ之ヲ神侶ト見認メ難ク畢竟神道ノ稽古人ヨリ後來教導職ノ見込アルモノヲ擧テ之ニ宛ルモノナリ之ニ反シテ僧侶ハ其宗旨アリテ之ヲ見認ルコト分明ナリ故ニ實際ノ取扱モ亦別格ナリトス法律文ハ成ルヘク明瞭ニ爲サルヘカヲサルヲ以テ

權訓導以上并ニ下僧侶ノ二字ヲ填加スルヲ可トス或ハ同一ノ名ヲ二様ニ取扱ヒ又ハ神道ニ偏重ナリト云フノ説アルヘキモ其實神道ノ試補ハ田舎ニテハ資産アルモノ又ハ少年者ヲ直ニ之ニ補スルニヨリ其面目ヲ辱カシムルコト往々之レアリ故ニ之ヲ除クハ到底神道ノ名譽ヲ失ハシメサルカ爲メナリト云フ長ノ本宗旨一飛キ
 ○七番 齋藤 贊成 齋藤 誠 大學 齋藤 誠 齋藤 誠 齋藤 誠 齋藤 誠
 ○議長 四番ノ説ニ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス 齋藤 誠 齋藤 誠
 ○二十番 佐野 常民 四番ノ修正説アリ仍テ試補ヲ刪リタル理由ヲ陳ヘン佛ハ試補ヲ僧侶ト認メタレトモ神ハ之ヲ神職ト認メス蓋シ兵役ヲ免カル爲メニ佛道ニ依リ神道ニ頼リテ僧侶トナリ神職トナルコト往々之レアレハナリ蓋シ神佛タルモノハ此依頼ニヨリテ之ヲ命ス

ルヲ爲サ、ルヘシト雖也必ス其規則ヲ設ケ人員ヲ定メ其學術品行
 検査ノ課程并ニ定限ヲ設ルニ於テハ此ニ試補ヲ入ル、モ敢テ妨ケ
 ナシトス仍テ内閣委員ヨリモ内務省へ通知シ本按修正ヲ落成迄ニ
 同省ヨリ右課程及ヒ定限ヲ定メテ之ヲ出サ、レハ刪ヲル、モ止ム
 ヲ得スト告ケタリシニ遂ニ之ヲ出サ、リシヲ以テ落成ノ日始メテ
 ○之ヲ删除セリ僧侶ハ歐洲ノ如ク大學校ヲ設クルニ至ラサル間ハ試
 補ヲモ置カサルヲ得ス神道ハ弱ナリト云フモ是レ亦宗旨ノ一派ナ
 レハ試補ヲ設クルコト當然ナリ然レトモ奈何セン内閣委員ノ保證ヲ
 キヲ以テ本按ニ至リ之ヲ刪リタルナリ
 ○九番黒田 澤綱四番ノ修正説ハ不可ナリ何トナレハ古來舊幕府ノ時迄
 モ社寺ハ分明ニ世俗ト區別セリ維新後ニモ神祇官アリ續テ教部省

アリ渾テ本邦ニ於テハ僧侶ハ一種ノ學道ニシテ他ト異ナリ然ルニ目
 今ハ其規則ナク又剃髮ノ規則モナク僧俗混一ノ姿ナリト雖也皆其
 學道ヨリ成立スル者ナルハ決シテ徵兵忌避ノ爲メトテ容易ニ彼ニ
 入り試補ト爲ルコトナカルヘシ神道モ亦此ノ如シ仍テ本按ヲ可トス
 ○四番福羽 美静佛ノ試補ト神ノ試補トハ難易ナシト云フモ神道ニハ本
 居ト平山アルニ關ハラヌ互ニ往來スルコトヲ得佛ハ増上寺ト延曆寺
 トハ決シテ相容レサル如キ其難易アルヤ辯ヲ俟スシテ知ルヘキナ
 リ又本願寺ノ如キハ二三男アリトモ之ヲ俗家トスルヲ欲セスシテ
 必ス眞宗トシ年少ヲモト雖モ圓頭試補ト爲シ敢テ其管長ヲ變替
 スルコトナシ故ニ神ト佛トハ同一ニ論スヘカラス二十番ノ神佛ヲ同
 一視スルハ理ニ於テハ不可ナシト雖トモ之ヲ實際ニ施スニ於テハ

未タ遽カニ其支障ナキヲ信スル能ハサルナリ又九番ノ説ノ如ク何
 レモ容易ニ爲スコトヲ得スト云フニモ服スルヲ得サルナリ二十番ハ
 内務省ニテ其管理ヲ爲スヲ得ルト云フモ是レ決シテ能ハサルナリ
 何トナレハ其僧侶ハ勉メテ幼年ノ僧ヲ教養スルコナレハ之ヲ束縛
 スヘカラス其知職ハ多クスヘシ金額ハ足スコトヲ得スト云フハ無理
 ナリ故ニ本按ハ修正スルヲ可トス
 ○番_外番_元正 第六項ニ就テハ番外一番カ陳述セント欲スルニ先チ
 四番ノ説モアリ其他種々ノ説アリシカ先ツ四番修正ノ理由ヲ聞ク
 僧侶ノ試補追ハ僧ト公認スルヲ以テ之ヲ除クト云ヒ僧侶ハ之ヲ
 免シ神道ハ之ヲ免セスト云フノ精神ナルカ故ニ試補ヲ刪リテ僧侶
 下爲モ其説ニ神道ハ之ヲ管理スルコト難シト云フト雖トモ法律ニ

於テ其免不免ヲ定ムルハ必ス公平明瞭ナルヲ要ス二十番ハ修正中
 試補ノ字ハ穩當ナラス取締ノ規則アレハ可ナリト云フ此論一理ア
 リ原按ハ現行按ノ忌避ノ途ヲ塞クモノナルカ故ニ固ヨリ其精神ヲ
 以テ設ケサルヘカラス畢竟神道ノ管理ナキヨリ佛ニモ波及セルナ
 リ内務省ニテモ試補ヲ免セザレハ不都合ナルヲ以テ其課程ヲ調査
 シタレトモ修正按落成以前ニ功ヲ竣ヘサリシニ依リテ本按ニハ之
 ヲ刪レリ然ルニ這般社寺局ヨリ其調査書ヲ出セシヲ見ルニ辛未丁
 年又モノ三千七百四十四人アリ此人員ハ必要ナリト云フニ由テ之
 ヲ三千人ト爲シ其他ハ訓導ニ主セ或ハ免シ後來ハ一年ニ千人ヲ限
 ルコト定メ神佛各管長ヘハ即チ教導職試補申付方之儀自今年齡二
 十年未滿ノ者ハ特別ノ見込有之分ニ限リ往行學術履歷等取調當省

本伺出認可ノ上可申付此旨相達候事ト布達スルト定メテ從前
 ハ各管長ニテ隨意ニ試補ヲ命シタレトモ後來ハ内務卿ヲ認可ヲ經
 テ之ヲ命スルコト爲サハ旁々忌避ノ憂大キヲ以テ内務省ヨリ試補
 ヲ免セラレシコトヲ乞フノ照會アリ且試補ニハ兵器ヲ執ラシムル能
 ハスト雖モ神道ハ例外ナリ忌避ノ途ナキ試補ナレハ本項ニ之ヲ揭
 クルヲ適當ト爲スヘシ僧侶ニシテ之ヲ限ルノ偏頗ヲ要セサルナリ
 ○十一番山口本官ハ本案ヲ可トス抑教導職タルモハ兵員ニ補ス
 可ラス設ヒ之ニ依テ忌避スルモノアルモ之カ爲メニ直ニ其教導職
 タルモノヲシテ兵役ヲ免セスト爲スハ不可ナリ道理ヲ以テ其忌避
 ヲ防カントセハ唯其取締ヲ設クヘキノミ法律ニ中學校ニテ免許ヲ
 受ケタルモノハ兵役ヲ免ストセリ然ラハ僧侶ニモ亦中學校ヲ設ケ

其免許ヲ受ケシムヘシ已ニ其校ヲ經過セサルモノハ人ヲ訓導スル
 可能ハサルハ言ヲ待タサルナリ歐洲ニハ大學校アリテ其免狀ヲ得
 サルモノハ人ヲ教フルコトヲ得サラシム是レ甚タ良法ナリ否ラサレ
 ハ人ヲ訓導スルモノハ鹵莽滅裂ナルヘシ苟モ此理ヲ悟ラハ本按ソ
 之ヲ删除セシハ不可ナキヤ明カナリ
 ○十四番中島試補ノ二字ヲ刪リタルハ番外一番ノ説ノ如ク試補ハ
 兵役忌避ノ淵藪トナルヲ恐レテナリ又僧侶ノミヲ免スハ法律ノ體
 面ヲ汚スヲ以テ止ムコトヲ得ス之ヲモ削リタルナリ然レトモ目下番
 外一番ノ陳述ヲ聞ケハ其管理法已ニ成リテ布達ノ手順ニ至レリト
 當時若シ此説ヲ聞クヲ得ハ之ヲ删除セザリシナリ蓋シ理ヲ以テ論
 セハ判任ヨリ戸長追兵役ヲ免スル以上ハ試補モ亦之ヲ免スルハ當

然ノコナリ此ノ如クセハ即チ公平無偏ノ法律トナルヘシ仍テ四番
 ノ説消滅セハ本官ハ試補ノ二字ヲ挿入スルノ修正ヲ提出セントス
 ○八番^{大給}恒 四番ノ修正説ハ不可ナリ教導職試補ハ何ノ爲メニ兵役
 ヲ免ストナレハ是レ免セサルヲ得サルノ職分ナルカ爲メナリ夫ノ
 戸主等ハ家累ヲ養育スルノ職分アリテ免カル、モ亦同シ然ルニ獨
 リ僧侶ハ之ヲ免シ神官ハ免セストセハ甚タ偏頗ナリ又神道ヲ講究
 スルカ爲メニ宜キヲ得ト云フ如キハ徵兵令ノ得テ管セサル所其取
 締ノ法ハ行政官ノ權内ニアリ故ニ本官ハ十四番ノ説議場ニ現出セ
 ハ之ニ同意セントス
 ○四番^{福羽 美静} 十四番ハ原按ニ依ラント云フト雖トモ彼レ管理ノ目的
 ナキヲ以テ止ムヲ得ス之ヲ刪リタリト云フニ依リ本官ハ修正説ヲ

出セシナリ而ルニ目下番外一番ハ其目的アルヲ告ク果シテ然ラハ
 本官モ亦心ヲ安ウセリ仍テ本官ノ修正説ハ之ヲ退ク各位此意ヲ了
 セラレシコヲ望ム
 ○七番^{齋藤 利行} 四番ノ修正説アリ本官之ヲ賛成セシ意見ハ假令神佛ヲ
 異ニスルモ試補ヲ加ヘシコヲ希フノ精神ヨリ忌避ノ淵藪ヲ嫌ヒ僧
 侶ノミヲ取リテ中斷セシナリ是レ或ハ不公平ナルニ似タレトモ極
 メテ實際ノ慣習ヨリ成立スルモノナリ夫ノ九番ノ陳述ノ如キ亦理
 アリ日本ノ慣習ニテ僧侶ノ學ハ他ノ學ト其體裁特別ナルモノナレ
 ハ其試補トナラント欲スルモ容易ナラス仍テ不十分ナレトモ四番
 ノ説ヲ可トセシナリ然ルニ目下四番ハ其説ヲ退クト云フ是レ他ナ
 シ番外一番ノ説ヲ聞キ取締ヲ爲スノ内決アル上ハ其淵藪ヲ防クニ

足レルヲ以テナラン蓋シ其意ハ其不平均ナル僧侶一方ヲ免スコヲ
 爲サンヤト云フニ過キサルヘシ本官惟フニ何人ヨリ説ヲ發スルモ
 其決議ニ至ラサル前ハ同意者幾許ナリヤ固ヨリ豫知スルヲ得サル
 ナリ今四番ハ其説ヲ退クト云フモ既ニ問題タル上ハ其可否ノ決ハ
 必ス之ヲ取ラサルヲ得サルモノト信ス又十四番モ番外一番ノ説ニ
 感觸シテ本按ニ比スレハ原按ヲ可トスルノ説アリ是レ亦同意ナリ
 然レトモ其管理ノ方法ハ未タ内決中ノコニシテ二十歳以上ノ學術
 アルモノヲ試補トシ他ハ之ヲ爲サスト定ムルハ縦令理アルモ之ヲ
 三千人ト爲スカ如キハ其行ハレサルヤ明ケシ已ニ行ハレサル以上
 ハ其説亦變セスト云フ可ラス故ニ目下ノ所ニテハ先々四番ノ説ノ
 如クシ内務省ヨリ取締ノ令發表スルヲ待テ之ヲ改メテ可ナリトス

仍テ依然四番ノ修正説ノ如クナランヲ欲ス

○二十四番細川潤次郎本官惟フニ一旦動議ヲ起セシ人其説ヲ退クルハ

變體ナリ然レトモ七番ハ假令四番ノ説ヲ廢スルモ自カラ變セスト

云フ夫レ甲動議ヲ發シ乙之ヲ賛成シ問題トナルノ後甲其説ヲ取消

サントスルニ當リテハ議長ハ之ヲ許スヤ否ヤト衆員ニ問フノ規則

ハ歐洲ニアルノ慣例ナリ故ニ今之ニ倣ヒ衆議ニ問ハレシコヲ欲ス

○議長 二十四番ノ説ノ如ク本院已ニ其慣例アリ四番ノ説ヲ退クヲ

許スニ同意ノモノハ起立セヨ

○起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ四番ノ説ハ之ヲ取消ス

○十四番中島信行四番ノ説ハ已ニ之ヲ退キタリ仍テ本官ハ官吏判任以上及

教導職試補以上并ニ戸長ト修正セントス其理由ハ業已ニ陳述シ盡

シタレハ復贅セス

○二十番 佐野 常民 賛成

○議長 十四番ノ説ニ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○七番 藤 利行 十四番ハ番外一番ノ説明ニヨリ寧ロ本按ヲ删除シテ原

按ヲ取ルト云フ其精神ハ誠ニ同意ナレトモ未タ發表セサル布達ヲ
信用スルハ太タ不可ナリ既ニ本按ノ如ク修正セシハ管理ノ法ヲ得

サルニ因ルニアラスヤ故ニ縦ヒ其法アルモ未タ發表セサル間ハ本
官ハ尙ホ四番ノ舊説ヲ主張セントスルナリ

○十四番 中島 信行 夫レ内務省ヨリ管理ノ法ヲ發令セサル前ハ之ヲ修正
スヘカラスト云フハ七番ノ持論ナリト雖モ本按モ亦未タ發表前ノ

モノニシテ到底甲乙共ニ未發ノモノタリ其レ然リ此理由ヲ悟ラハ

七番モ必ス水ノ卑キニ就クカ如ク本官ニ同意スヘシト信スルナリ

○議長 時正午ナルヲ以テ午餐ノ爲メ暫時散會スヘシ

正午閉場

午後第一時開場

○議長 午前引續キノ會ヲ開ク

○四番 福羽 美靜 本官ノ修正説ハ午前已ニ之ヲ退ケタリ十四番ノ説ハ原

按ト同一ニスルモノナレハ太タ其宜キヲ得タリ何トナレハ番外一

番カ内務省ニテ試補ノ制限ヲ制定シ其布達ヲ爲スヘキヲ以テ敢テ

濫雜ニ至ラサルヘシト明言セリ假令其布達文少シク改正スル所ア

ルモ大意ハ差違ナカルヘク是レ往古度牒ヲ設ケラレタルノ意ト同
 一ノモノナレハナリ蓋シ當時ニ在テハ單ニ佛ニ限リタレトモ今日
 ハ神佛トモニ同一視シテ可ナリ萬一内務省カ之ヲ果サ、レハ本官
 更ニ建白スルノ考按ナリ仍テ十四番ヲ賛成ス

○十一番 山口 尙勞

十四番ノ修正説ハ非ナリ夫レ神佛共ニ其門ニ入ル者
 ハ能否ヲ問ハス直ニ試補ヲ命スルハ不可ナリ必ス之ヲ試験スルノ
 道ナカル可ラス彼ノ醫ヲ見スヤ人命ヲ救助スルノ重任ナレハ幼少
 ヨリ藥各診察其他ノコヲモ研究シテ始テ至難ノ學業ヲ修スルヲ得
 然レモ未タ業此ニ至ラサル二三男ヲ舉ケテ悉ク醫ト稱シ以テ兵役
 ヲ免カレンコヲ欲スルモ決シテ之ヲ許サ、ルヘシ是レ學校ノ課程
 ヲ經ルト否トニ由テ判定スルモノナリ抑神佛ノ試補ノミ毎年三千

人ヲ免役セシト欲スルハ何ノ爲メナリヤ是レ試験法立タサレハ前
 驗醫師ノ二三男ト同ク特典ヲ與フ可キ者ニ非サルナリタトヒ之ヲ
 免スルヲ可ナリトスルモ其時ニ於テ七千人ノ情願人アラハ之ヲ如
 何止ムヲ得ス抽籤法ヲ用ヒサルヲ得ス或ハ又之カ制限ヲ設ケ三千
 人トナサントシ之ヲ本院ノ議定ニ付セラル、ニ方リテハ本官ハ徹
 頭徹尾非ノ一字ヲ呈セサルヲ得ス何トナレハ法律ノ精神ハ一般ニ
 施シ得ヘキヲ要ス因テ神佛共ニ夫ノ中學校ト同ク課程ヲ設ケテ之
 ヲ免セント欲スルナリ然ルニ或ハ試補ヲ免セサレハ他ニ感觸ヲ來
 スノ恐レアリト云フノ説アルヘシト雖モ若シ之カ爲ニ不平均ノ法
 ヲ創設セハ亦其感觸ヲ來スノ恐レアルハ同一ナリ此ノ如ク論シ來
 レハ必ス其修正ノ拙ナルヲ悔ルナルヘシ

○二十四番 細川潤次郎

十四番ノ修正説ニ同意ス本官モ修正委員ニシテ
今斯ク同意スルハ蓋シ故アリ修正委員ニ於テハ現行法及ヒ原按ニ
就テ反復討議スルニ本官元ヨリ原按ノ如クナサント欲シタレトモ
試補ハ濫選ナリトノ説多キカ故ニ止ムコトヲ得ス本按ニ決シタリ然
ルニ本案ヲ作ルニ當リ何ノ爲メニ試補ハ兵役ヲ免セサルヤトナレ
ハ其管理ノ順序決定セハ之ヲ免スヘシ否ヲサレハ止ムヲ得ス之ヲ
免セサルヘシト假決シ猶一步ヲ進メ之ヲ社寺局ニ質シ之カ管理ヲ
爲スヲ得ルヤ否ヤヲ問ヒタレトモ修正按落成ノ期ニ至ルモ其方法
決定セサリシヲ以テ遂ニ本按ノ如クナシタルナリ然ルニ今日番外
一番ノ説ヲ聞クニ其管理ノ方法既ニ定マリタリト然ラハ之ヲ原按
ノ如クスルハ當然ノコトナリ又第六項ニ官吏判任以上及教導職權訓導以

上并ニ戸長トアリテ之ヲ官吏ト戸長トノ間ニ插入シタルヲ以テ見
レハ之ヲ官吏ト併視シタリト云フモ肯テ妨ケナシトス十一番ハ若
シ之ヲ官吏視スルトキハ其教導職ヲ止ムルモ猶教導ハ之ヲ爲スニ
アラサルヤト云ヘ凡夫ノ詩文家ノ門生カ詩ヲ賦シ文ヲ誦スルト同
一視スルヲ得サルナリ元ヨリ僧侶ニ兵役ヲ取ラシムルハ吾國ノ古
例未タ之ヲ見ス各國亦共ニアラサルヘシ果シテ之ヲ爲サシメハ遂
ニ夫ノ叡山ノ僧ト加茂川ノ水トハ意ノ如クナラス同一視スル如キ
恐レアルニ至ラン右ノ如キハ甚タ穩安ナラサルナリ前ニ四番ノ發
議ニ七番ノ賛成セシ如ク佛ト神トヲ區別スル能ハス神道ニモ數派
アリ佛亦然リ決シテ其區分ヲ立ツヘカラス
○十一番 山口尚芳 試補ノ内ニモ亦區別アリ果シテ皆訓導トナルコトヲ得

○書記官代理 城多 董 左ノ按ヲ朗讀ス

第三十條 左ニ掲ル者ハ平時ニ於テ一時徵集ヲ猶豫スヘシ

第一項 海軍兵員ト爲ランコトヲ志願スル者

第二項 陸海軍常備在役中ノ下士卒ノ兄或ハ弟

第三項 同年齡ノ兄弟同時ニ徵兵ニ當ル者ノ弟

但シ其兄不合格ナルトハ此例ニ非ス

第四項 陸海軍生徒ノ兄或ハ弟

第五項 父及ヒ兄或ハ父ナクシテ兄失踪又ハ癱疾不具等ニテ

産業ヲ營ムコト能ハス本人ヲ要セサレハ一家ノ生計ヲ

維持スルニ失フ者

第六項 文部省所轄并ニ其他省使ニ屬スル官立學校及ヒ公立

師範學校ニ於テ修業一ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒

第七項 公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ修業三ケ年ノ課

程ヲ卒リタル以上ノ生徒

第八項 學術修業又ハ商用等ニテ外國ヘ寄留スル者

第九項 身幹未タ定尺ニ滿タス又ハ疾病中或ハ病後ノ故ヲ以

テ仍ホ未タ勞役ニ堪ユルコト能ハサル者

第十項 刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官城多董代理 左ノ案ヲ朗讀ス

第三十一條

官省院使府縣準官吏御用掛御雇等ハ之ヲ免役セスト雖モ餘人ヲ以テ代フヘカラサル事務ヲ奉スル者ノ如キハ特ニ太政官ニ具狀シテ裁決ヲ請フヘシ

但諸省使府縣雇入外國人ニ附屬シ官費ヲ以テ技藝傳習中ノ者亦本條ニ準スヘシ

○二十三番柳原前光

但書諸省云々ノ中ニ院ノ字ナク本條ト異同アリ惟フニ是レ脱漏ナルヘシ之ヲ挿入スルヲ可トス

○二十六番伊丹重賢賛成

議長 二十三番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲シ直チニ決

ヲ取ン廿三番ノ修正ニ同意ノモノハ起立セヨ

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ二十三番ノ修正説ニ決ス

書記官城多董代理 左ノ按ヲ朗讀ス

第三十二條 第二十八條第二項乃至第五項ニ當ル者并ニ第二十九

條第一項第二項ニ當ル者常備年期ノ第三年検査時限ニ至ル迄ニ

其名稱ヲ罷メタル者ハ更ニ徵集ニ應セシムルモノトス

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官城多董代理 左ノ按ヲ朗讀ス

第三十三條 第二十九條第三項ニ當リ一家兄弟三人以上アル者奇

數ナルキ甲ヲ免スレハ乙ヲ徵集シ丙ヲ免ス又偶數ナルキ甲ヲ免スレハ乙ヲ徵集シ丙ヲ免シ丁ヲ徵集スヘシ

○議長 發議ナキヲ認ム本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ
起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス
書記官 城多董 代理 左ノ按ヲ朗讀ス

第三十四條 第二十八條第六項乃至第八項及ヒ第三十條ニ當リ免役若クハ徵集猶豫ノ者常備年期ノ第三年檢査時限ニ至ル迄ニ其職務ヲ離レ或ハ半途退學スルキハ更ニ徵集ニ應セシムル者トス
○十四番 中島 信行 本條中乃至ノ二字ヲ刪除シ第八項ノ「八」ハ七ノ誤リナレハ之ヲ修正セン

○二十四番 細川 潤 次郎 賛成

○議長 十四番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲シ直チニ決ヲ取シ十四番ノ修正ニ同意ノモノハ起立セヨ
全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ十四番ノ修正説ニ決ス
書記官 城多董 代理 左ノ按ヲ朗讀ス

第三十五條 第二十八條第四項乃至第八項第二十九條第四項乃至第九項及ヒ第三十條第六項第七項ニ當ル者ト雖モ第六十一條ニ示シタル徵兵各自届出期限ヲ過キ即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ免役又ハ猶豫ノ限ニ非ス
○二十四番 細川 潤 次郎 本條ニハ粗漏ノコアルヲ以テ之ヲ正サシ第六十

○二條ニトアルハ六十二條ノ誤リ又第二十八條第四項乃至第八項トアルハ第七項ノ誤リナリ此ニ之ヲ修正スヘシ

○二十番 佐野 常民 賛成

○議長 二十四番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲シ直チニ決ヲ取シ廿四番ノ修正ニ同意ノ者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ二十四番ノ修正説ニ決ス

書記官 城多董 代理 左ノ按ヲ朗讀ス

第三十六條 第三十條ニ當ル者ハ一ケ年間ヲ限り徵集ヲ猶豫スヘキヲ以テ其事由已ニ止ムルハ徵集ニ應スヘキハ勿論タリト雖モ

次年ニ至リ其事由猶繼續スルルハ又之ヲ猶豫スヘシ而シテ終ニ

第三ケ年ノ検査時限ニ至リ其事由猶繼續スルルハ平時ニ於テ之ヲ免役スヘシ

但第三十條第二項及ヒ第四項ニ當リ平時ニ於テ免役ニ屬スル者ハ第三十三條ノ例ニ準スヘシ

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官 城多董 代理 左ノ按ヲ朗讀ス

第三十七條 平時免役ニ屬シ第五十條及ヒ第五十二條但書ニ當ル者ハ第一豫備徵兵ト爲シ第二十九條第三十六條ニ當ル者ハ第二

豫備徵兵ト爲シ各年齢三十歳迄ハ戰時ニ當リ後備軍ヲ召集シ尙

兵員ヲ要スル時ハ其順序ニ從ヒ臨時召集シテ隊伍ニ編制シ或ハ
 輜重運輸ノ役ニ供スルコトアルヘシ
 ○番渡正 本條ニ付テハ一言ヲ述ヘサルヲ得ス夫レ本文ニ戰時
 外一 當以トアルハ非常或ハ戰時ニトアルヘキノ脱漏ナラン何トナレ
 ハ第五條ニ豫備軍ハ常備軍三箇年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制
 シ更ニ三箇年ノ役ニ服セシメ常ニ家居シテ産業ヲ營マシム而シテ
 戰時或ハ非常ノ事故アル時ニ當リテハ直ニ之ヲ召集シ常備軍ニ加
 ヘ其員ヲ補充シ又ハ別ニ隊伍ニ編制シ從軍セシムル者ナリ故ニ每
 歲一度屯營ニ召集シ其技藝ヲ復習セシムトアリテ第六條ニハ「後備
 軍ハ豫備軍三箇年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制シ更ニ四箇年ノ
 役ニ服セシメ豫備軍ニ次テ之ヲ召集スル者ナリ故ニ平時ニ於テハ

每歲一度便宜ノ地ニ召集シ其技藝ヲ復習セシムトアリ是レ其甲乙
 相照應セサル可ラサルヲ以テナリ仍テ「非常」ノ二字ヲ插入セラレン
 コヲ希望ス
 ○二十四番 細川 次郎 番外一番ノ說ノ如ク非常ノ字ハ戰時ト竝記セリ
 仍テ本按モ亦非常ノ二字ヲ插入スルヲ可トス然レトモ非常戰時ト
 云フハ順序太タ可ナラサルヲ以テ宜ク戰時或ハ非常ノ事故アル時
 ニ當リ云々トナスヘシ
 ○二十六番 伊丹 重賢 賛成
 ○議長 二十四番ノ修正說ヲ問題トス之ヲ可トスルモノハ起立セヨ
 起立者十五人
 ○議長 多數ナルヲ以テ二十四番ノ修正ニ決ス且第五章ヨリハ毎三

○條連帶シテ決ヲ取ラントス仍テ之ヲ衆議ニ決セン

○十二番河野敏録 本按修正ノ眼目ハ第四章ニシテ畢竟免役ヲ非免役ト

爲スヤ否ニアリ以下ハ多ク舊ニ因ルモノナレハ之カ朗讀ヲ省キ直

ニ問題トナシ若シ修正ノ議アラハ其條ニ就テ決ヲ取ラレンコトヲ企望ス

○二十番佐野常民 修正ノ疎漏ナル所モアレハ其注意スヘキモノハ決議

前一々之ヲ述ヘント欲ス仍テ此旨ヲ建議ス

○二十四番細川潤次郎 二十番建議ノ如ク間々其疎漏ナル所アリ仍テ今

每條一々之ヲ辯明シテ後ヲ決ヲ取ラレンコトヲ乞フ

○議長 可ナリ

○二十四番細川潤次郎 第三十九條人別表ノ末ナル備ト考トノ間ニ介セ

ルニ線ヲ印刷ヲ誤リナレハ之ヲ除キ又身幹尺度ノ下ニ米ニテ何尺

何寸何分トアルモ同條ニ徴兵検査ノ時節ニ至レハ使府縣廳ヨリ左

○式ノ野紙ヲ戸長ニ渡シ戸長ハ検査ヲ受クベキ者ノ戸籍ニ基キ朱書

ニ示シタル如ク本人ノ姓名産國住所誕生ノ年月日及ヒ戸主タル者

○ノ名姓ニ氏神宗門其他同戸籍ノ父母祖父母兄弟妻子等ヲ記載シ之

ヲ人別表トシ徴兵検査ノ時差出スヘシトアリテ人別表ハ戸籍ニ基

キ戸長ノ作ルモノナレハ此何尺何寸何分ハ戸籍ニ載セス且検査ヲ

經サレハ分明ナラス之ヲ經テ後ヲ始テ記スヘキモノタリ仍テ何尺

何寸何分ヲ六字ヲ刪リ同第三項ノ下身幹尺度ノ區畫ニハ検査ノ後

○徴兵署ニ於テ其身幹尺度ヲ記註スヘシノ一項ヲ添加シ其第四項ノ

記註スヘシノ下第四拾條検査表モ亦之ニ同シノ十三字其第二項

但シテ「シ」字トヲ削リ其第四十條検査表中身幹尺度ノ下「何尺何寸何分」トアリ是レ亦豫メ示スヘキモノニ非サルヲ以テ之ヲ除キ其第四十七條ノ常備一ケ年ノ徴員ニ基キ若干ノ比例ヲ以テトアルモ亦之ヲ削リ其第五十一條番號割符表中何鎮臺ノ左ニ朱書セル「常備補充」ノ四字及ヒ其一野ヲ删除シ其次野畫中常備軍補充兵編入候事ト朱書シ「補充兵」ノ上下ニ半月形ヲ加フルヲ可トス

○二十番 佐野 常民 二十四番ノ修正ハ彼此繁雜アルカ如キモ意味ニ於テ全ク變リナキコト分明ナレハ其說ノ如クナラシヲ希望ス

○議長 二十四番修正ノ意味ハ已ニ之ヲ盡セリ因テ十二番ノ建議ヲ可トスルモノハ起立セヨ

起立者十一人

○議長 多數ナルヲ以テ十二番ノ說ニ決シ第五章以下ハ別段朗讀ヲ要セサル可シ

○二十四番 細川 潤 次郎 亦少ク混シタレトモ目下更ニ本官ノ修正說ヲ提出シテ可ナルヤ

○議長 可ナリ

○二十四番 細川 潤 次郎 前ニ陳シカ如ク本官ノ修正ノ說ハ業已ニ各位ノ清聽ニ達シ分明ニ了解アリシヲ認ム否ラスンハ各位ハ逐條決議ヲ要セラルナルヘシ因テ其修正說ハ前陳ニ讓リ贅述セサルヘシ冀クハ此一語ヲ以テ修正說ノ再供ト認メラレシコトヲ

○十二番 河野 敏 鐵 賛成

○十四番 中島 信 行 賛成

人別表

兄弟	姉	妹	妻	子
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
備	考			

産國ト現今ノ管轄使府縣ノ異ナル者ハ表首國郡區町村産ト記スル以上其産國ノ使府縣ヲ加ヘ若又寄留地ノ徵集ニ應スル者ハ國郡區町村住ト記スルノ代リニ其寄留地使府縣及ヒ何郡區町村寄留ト書スヘシ

族職業ノ區畫ニハ華士族何(平民何)ト記ス但シ女ハ戸主ニ非サレハ族職業ヲ記スルニ及ハス餘ク父母祖父母叔祖母等

父母亡スル者ハ名ノ下ニ亡ト記シ年ノ區畫ニハ〇ヲ記スヘシ祖父母亡スル者亦之ニ同シ

身幹尺度ノ區畫ニハ検査ノ後徵兵署ニ於テ其身幹尺度ヲ記註スヘシ兵種番號ノ區畫ニハ抽籤ノ後徵兵署ニ於テ其兵種番號ヲ記註スヘシ第四拾條検査表モ亦之ニ同シ

備考ノ區畫ニハ徵兵署及ヒ後備軍本部ニ於テ須要ノ件々ヲ記註スヘシ

第四拾條 徵兵ノ身體検査ヲ爲ス時ハ徵集名簿ノ順序ニ從ヒ之ヲ呼出シ陸軍醫官検査規則ニ照シ徵兵醫官之ヲ検査シ地方徵兵醫員ヲシテ體格體質等ヲ左式ノ検査表ニ記註セシム

検査表

ヒ使府縣徵兵事務官一行トナリ組ヲ分テ巡回セシメ相應ノ場所ニ於テ徵兵檢査所ヲ設テ其式本署ニ異ナルヲオシ

第六章 抽籤

第四拾五條 抽籤ハ徵兵ノ檢査終リタル後人別表及ヒ檢査表ヲ案シ兵役ニ適スヘキ人員ニ應シ徵員配當表ニ基キ兵種ヲ區別シ使府縣徵兵署ニ於テ常備抽籤ヲ行フヘシ

第四拾六條 抽籤ハ各自ニ之ヲ行ハシムル者ナリト雖モ各自ノ便宜ニ依リ一町村或ハ數町村又ハ一郡區内ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名ヲ限リ徵兵各自ノ抽籤總代ト爲シ之ヲ抽カシムルモ妨ケナシ

第四拾七條 常備缺員ヲ補フ爲補充兵トシテ一々年ヲ期トシ

常備一々年ノ徵員ニ基キ若干ノ比例ヲ以テ常備徵員ニ亞キ之ヲ徵集スル者トス

第四拾八條 抽籤施行ニ先タテ該使府縣籤丁ノ總員及ヒ各兵種常備補充ノ徵員ヲ記載シ之ヲ抽籤所ニ揭示スヘシ

第四拾九條 抽籤ノ法ハ籤丁ヲ調ヘ其人員ニ應シ左式ノ籤札ニ番號ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿掛ノ側ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其姓名ヲ呼ヒ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉クル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取り籤簿ニ姓名番號ヲ記シ籤札ハ本人ニ返付ス

兵種 籤札ハ厚紙ヲ凡ソ方三寸ニ切り之ヲ四ツ折ニ

第何番

シテ中分ヲ拈ル

第五拾條 抽籤ノ法例ハ籤丁五百人ナルハ第壹番ヨリ第
 五百番迄ノ籤ヲ納レ本年常備徵員貳百人補充徵員壹百人ナ
 レハ第壹番ヨリ第貳百番迄ノ籤ヲ抽キシ者ヲ常備トシ第貳
 百壹番ヨリ第三百番迄ノ籤ヲ抽キシ者ヲ補充トシ其餘ヲ以
 テ落籤トス
 但落籤ニ當ル者ハ平時ニ於テ兵役ヲ免ス
 第五拾壹條 抽籤全ク終ル後籤簿及ヒ人別表ニ依テ左ノ番
 號割符ヲ作り籤簿ニ引合セ割印ヲ爲シ本人ヲ呼出シ籤札ヲ
 出サシメ相違ナキ者ヘハ籤札ト番號割符ト引替渡スヘシ
 番號割符

日	月	年	治	陸 明 徵 兵	軍 何	使(府縣)國郡(區)町(村)住族及ヒ職業
備 充	常 補	臺	鎮	兵 種	番 號	戶主名何男(兄)弟(伯)叔(甥)(附籍)
		常備軍(補充兵)編入候事	何 某			

豫備軍ニ編入スル者ハ番號割符ノ裏面ニ

第何師 後備軍 本部印	年月日 豫備軍編入候事	第何師 後備軍 本部印	年月日 後備軍ニ編入スル者ハ	第何師 後備軍 本部印	年月日 後備軍編入候事	第何師 後備軍 本部印	年月日 近衛兵ニ編入スル者ハ	第何師 後備軍 本部印	年月日 近衛兵編入候事	第何師 後備軍 本部印	年月日 補充兵ヨリ常備軍ニ編入スル者ハ	第何師 後備軍 本部印	年月日 補充兵ヨリ常備軍ニ編入スル者ハ	第何師 後備軍 本部印	年月日 常備軍編入候事
-------------------	----------------	-------------------	-------------------	-------------------	----------------	-------------------	-------------------	-------------------	----------------	-------------------	------------------------	-------------------	------------------------	-------------------	----------------

第五拾貳條

補充兵ヲ命セラレタル者ハ常ニ家居シテ産業ヲ營マシメ常備缺員ノ節ハ其鎮臺ヨリ籤順ニ布達シ入營セシムヘシ

△ヘシ出ヘシ

但本年常備兵入營期限初日即チ四月廿日ヨリ起算シ滿一

年ニ至リ終ニ入營ヲ命セサル者ハ平時ニ於テ之ヲ免役スヘシ

第五拾三條

補充兵ヨリ常備軍ニ編入セシ者ハ本人入營ノ月日ニ拘ハラズ總テ本年ノ常備兵入營期限初日ヨリ起算シ三

年ノ期ヲ保タシムヘシ

第五拾四條

徵兵使ハ使府縣ニ於テ徵兵事務全ク竣ルノ後徵兵各自ノ人別表及ヒ檢査表ヲ點檢シ兵種毎ニ常備補充ヲ區

別シ入別表ハ兵卒明細名簿ト題シ検査表ハ兵卒検査名簿ト
 題シ籤簿ト共ニ陸軍省并ニ鎮臺ヘ差出スヘシ
 第五拾五條 徵集名簿并ニ免役名簿其他種々ノ願書及ヒ届書
 郡區長戸長ヲ取調證書總テ徵兵ニ關スル書類ハ使府縣毎ニ
 取纏メ前條諸名簿ト共ニ陸軍省并ニ鎮臺ヘ差出スヘシ
 第七章 徵兵雜則

第五拾六條 常備籤ヲ抽キタル徵兵ハ四月廿日ヨリ五月二日
 迄ニ入營スヘシ其營所迄ハ使府縣毎ニ最寄ヲ分チ戸長之ヲ
 引纏メ出ヘシ

但入營迄ノ費用ハ總テ定期ニ照準シ大藏省ヨリ支給スヘシ
 第五拾七條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ

其事實ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ最寄地方醫師ノ診斷書ヲ
 添ヘ郡區長ノ與書証印ヲ以テ速ニ其鎮臺或ハ營所ヘ届出ヘ
 シ
 第六但其年十月一日ニ至ルモ事故猶止マサル者ハ之ヲ入營延
 期翌年廻シノ者ト爲シ翌年徵募ノ期ニ於テ更ニ検査ヲ遂
 ケ尋常ノ徵兵ニ先ダチ入營セシムヘシ
 第五拾八條 常備軍服役在營中身元轉居スルキハ其親族ノ者
 ヲリ直ニ本人ニ通報シ本人ヨリ自己所屬ノ下士ヘ届出ヘシ
 第五拾九條 常備軍在營中病氣ノ者ハ軍醫ノ診斷ヲ以テ病院
 ニ入レ治療セシメ其上ニテ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ兵籍ヲ除ス
 然レシ尤歸郷迄ノ旅費ハ定則ニ照準シ陸軍省ヨリ支給スヘシ

第六拾條 常備軍在營中父母ノ重病或ハ非常ノ事故アル者ニ時已ムヲ得スシテ歸省ヲ願フ其ハ其親族ノ者ヨリ郡區長ノ特與書証印ヲ以テ鎮臺或ハ營所ヘ願出ルニ於テハ詮議ノ上往復ヲ除ク外ニ週日以内ノ歸省ヲ許ス尤旅費ハ自辨タルヘ
 但入營後六ヶ月未滿ニシテ成業ニ至ラス或ハ實地演習又ハ臨時觀兵等ヲ奉アル非ハ本條ノ限ニ非ス
 第六拾一條 全國ノ男子齡十七歲ニ至レハ國民軍籍ニ入ルルキヲ以テ毎年一月ヨリ十二月迄ニ十七歲ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ其戶主(本人戶主ナレハ即チ自身)ヨリ本人ノ姓名族籍住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ戶長ヘ届

出ヘシ戶長之ヲ取調ヘ同月二十五日迄ニ郡區長ヘ差出シ郡區長點檢ノ上十月十日迄ニ使府縣廳ヘ差出シ國民軍名簿ニ載セ置クヘシ

但他府縣ヘ寄留スル者ハ本籍ノ戶長ヘ届出テ寄留地ノ戶長ヘハ届出ルニ及ハス

第六拾二條 男子二十歲ニ至レハ兵役ニ就クヘキヲ以テ毎年一月ヨリ十二月迄ニ二十歲ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ左式ノ如ク其戶主(本人戶主ナレハ即チ自身)ヨリ戶長ヘ届出ヘシ戶長之ヲ取纏メ同月二十五日迄ニ郡區長ヘ差出シ郡區長點檢ノ上箇條ヲ區別シ十月十日迄ニ各自ノ届書ト共ニ使府縣廳ヘ差出スヘシ使府縣廳之ヲ調査シ徵兵諸名簿

廿載十二月二十五日迄ニ所營鎮臺へ出スヘシ

徴兵各自届式ヲ...

職業

同日十五日迄ニ...

第六拾三條 嗣子(承祖孫)相續人...

右私何男(弟孫甥又ハ附籍等)ニテ本年何月二十

歳ト相成候間此段及御届候也

郡區町(村)住族及ヒ職業

年月日 主何(某)印

年月日生

郡區町村戸長

何某殿

第六拾三條 他ノ使府縣へ寄留スル者ハ其本籍府縣ニ於テ徴

集ニ應スルト其寄留地ニ於テスルトハ總テ本人ノ情願ニ任

第六拾四條 寄留地ニ於テ徴集ニ就ント欲スル者ハ寄留地ニ

於ケル身元引人ノ証書ヲ添ヘ九月一日迄ニ其旨ヲ本管廳

並ニ寄留管廳ニ届出ヘシ其本管廳ニ於テハ其地ノ戸主タル

者ヲ取糺シ上寄留管廳ヘ其旨ヲ通牒シ徴集名簿ノ末ニ附シ

其事由ヲ詳記スヘシ

第六拾五條 本年徵兵ニ當リ免役料金貳百七拾圓ヲ上納スル者ハ國民軍ノ外兵役ヲ免ス
 但免役料ハ其使府縣廳ニ纏メ五月中ニ陸軍省ヘ納ムヘシ
 第六拾六條 前條ノ免役ヲ願出ル者ハ其親族ノ者ヨリ徵兵使
 巡行徵兵検査以前願書ヲ戸長ヘ差出シ戸長之ニ與書証印ヲ
 爲シ郡區長ヘ差出シ郡區長點檢ノ上使府縣廳ヘ差出シ使府
 縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ差出スヘシ
 第六拾七條 徵兵ニ關スル事件ニ付キ年齡及ヒ父母兄弟ノ有
 無ヲ偽リ或ハ身体ヲ毀傷シ或ハ疾病ヲ作爲シ其他詐欺ヲ以
 テ徵集ヲ規避スル者並ニ郡區長或ハ戸長ノ之ニ証印ヲ爲セ
 シ者ハ共ニ常律ヲ以テ之ヲ處分ス

第六拾八條 前條ニ掲ル所ノ徵集ヲ規避スル者及ヒ第六十二
 條ニ示ス所ノ定規ノ届出ヲ怠ル者ハ翌年徵集ノ期ニ於テ檢
 査ヲ遂ケ第五十七條但書ニ示シタル入營延期翌年廻ノ者ニ
 先ダテ入營セシムヘシ

第八章 徵兵

第六拾九條 凡ソ六管鎮臺下ニ於テ各種ノ兵員ヲ分チ其徵員
 ヲ定ムル左ノ如シ

第一軍管東京鎮臺常備人

步兵 三聯隊

騎兵 一大隊

砲兵 二大隊

工兵 一大隊
 輜重兵 一小隊
 海岸砲兵 三隊
 人員七千〇二十人
 内一ヶ年徴員 二千三百四十人
 管下府縣
 東京 神奈川 埼玉
 静岡 山梨 群馬
 千葉 茨城 栃木
 長野 新潟
 第二軍管仙臺鎮臺常備

步兵 二聯隊
 砲兵 一大隊
 工兵 一大隊
 輜重兵 一小隊
 人員四千二百六十人
 内一ヶ年徴員 一千四百二十人
 管下諸縣
 宮城 福島 青森
 岩手 秋田 山形
 第三軍管名古屋鎮臺常備
 步兵 二聯隊

砲兵

二天隊

工兵管谷古里砲臺中隊

輜重兵

海田一小隊

山添

官制人員四千二百六十人

青森

管下諸縣

內一ヶ年徵員一千四百二十人

愛知人員四百

岐阜六十八人 石川

靜岡

滋賀ノ内

長野ノ内

遠江一國

越前一郡

信濃四郡

第四軍管大坂鎮臺常備中隊

步兵

三聯隊

砲兵

二天隊

工兵

二天隊

輜重兵並本鎮臺常備一小隊

海岸砲兵

愛媛二小隊

館中一團
岡山ノ内

砲臺人員六千七百人

山口

管下諸縣內一ヶ年徵員二千二百三十三人三分一

管下府縣

內一ヶ年徵員一千四百四十六人三分二

大坂人員四千兵庫四十人 堺

和歌山

京都

滋賀

三重

岡山一小隊

島根ノ内
因幡 伯耆 隱岐 一團

第五軍管廣島鎮臺常備中隊

步兵

三聯隊

砲兵 一大隊

工兵 第一中隊

輜重兵 岡山一小隊

海岸砲兵 第一隊

人員四千三百四十人

管下諸縣 內一ヶ年徵員 一千四百四十六人三分二

廣島人員六千島根八

山口

高知 愛媛

岡山ノ内 備中一圓

第六軍管熊本鎮臺常備

步兵 二聯隊

砲兵 二大隊

工兵 一大隊

輜重兵 一小隊

海岸砲兵 二隊

人員四千七百八十人

內一ヶ年徵員 一千五百九十三人三分一

管下諸縣 人員 三萬四千四百八十人

熊本 鹿兒島 大分

福岡 長崎 沖繩

第七軍管

海岸砲兵 八十八人 一隊 現今第二軍管ノ 管轄ニ屬スル者

人員八十人

内一ヶ年徴員 二十六人三分二

管下

開拓使ノ内函館支廳管下一圓

人員 三萬千四百四十八

總計

内一ヶ年徴員 壹萬〇四百八十人
輜重輸卒看病卒及職工ハ未タ其徴員ヲ定メス故ニ之ヲ茲ニ算入セス

第七拾條 補充兵員ハ諸兵總テ常備徴員ニ同シ

第七拾一條 各種ノ兵卒其身幹ノ尺度ヲ定ムル一左ノ如シ

砲兵

海岸砲兵 五尺四寸以上

騎兵

工兵 五尺三寸以上

輜重兵

歩兵 五尺以上

輜重輸卒

看病卒 尺度ヲ定メス

職工

第七拾二條 常備補充一ヶ年徴員ハ其大要ヲ示ス者ニシテ軍

隊編制ノ都合ニ由リ若干ノ人員ヲ増減スルハ時宜ニ由ルヘ

シ

七番 齋藤利行
 八番 大給 恒
 九番 黒田 清綱
 十番 吉井 友實
 十一番 山口 尚芳
 十二番 河野 敏録
 十四番 中島 信行
 十五番 津田 眞道
 十七番 楠田 英世
 十八番 津田 三出
 十九番 河田 景與

○第百四十六號請願書
 津田 三出
 河田 景與

二十番 佐野 常民
 廿一番 岩下 方平
 廿二番 佐々木 高行
 廿三番 柳原 前光
 廿四番 細川 潤次郎
 廿五番 田中 不二磨
 廿六番 伊丹 重賢
 廿七番 河瀬 眞孝
 廿八番 前島 密良
 廿九番 正元
 三十番 素彦

○第百四十七號請願書
 素彦

午前第十時三十分開場

○議長 本日ハ第四百四十六號徵兵令中第二條第二項ノ第二讀會ヲ開ク然ルニ本項ハ修正案ト再修正案トノ兩案アリ今何レヲ以テ本案トセンカ例ニ由リ之ヲ衆議ニ決セントス乃再修正案ヲ以テ議スルヲ可トスルモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ再修正案ヲ本案トス書記官朗讀ノ後例ニ由リテ發言セヨ

書記官

戸田

左ノ按ヲ朗讀ス

第二項

強壯ニシテ技藝ニ熟シ行狀正シキ者ハ入營六ヶ月ニシテ近衛兵ニ拔擢シ更ニ三年ノ役ニ服セシメ役終ルノ後豫

備軍ニ編入シ二年六ヶ月ノ後後備軍ニ編入ス然レモ近衛營三年ヲ經過シ歸郷ヲ請フ者ハ之ヲ許シテ豫備軍ニ編入スヘシ

但近衛兵編制ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

○番一 渡正

今問題トナリタル再修正案ニ對シ肯テ一言ヲ陳セン

トス抑修正案ニ據レハ徵兵六ヶ月間鎮臺ニ在營セシモノヲ取テ近衛兵ト爲ス然レモ在營一ヶ年半ニシテ歸郷ヲ請フモノハ之ヲ許ストアリ是務メテ常備兵ト年限ヲ同一ニセントノ意ナルヘシト雖モ常備兵ハ每歲四月ヲ以テ之ヲ徵シ其兵ヲ拔テ近衛ニ編入スルハ其十月ヲ以テ從來ノ成規ナリ本案ニ據レハ徵兵六箇月ノ後ヲ以テ近衛ニ編入シ在營三年ノ役ヲ了ヘシムト雖モ若シ二箇年半ニシテ歸

郷ヲ乞フモノハ之ヲ許ストセハ必々實際ニ缺員ヲ生モシ既ニ缺員ヲ生スル所ハ直ニ之ヲ臺兵ヨリ補充セサルヘカラス若シ此法ヲ用フル所ハ臺兵中近衛編入適應ノモノニ不足シ到底新兵ヨリ近衛ニ編入セサル可カラサルニ至ラン但シ新兵ヲシテ直ニ近衛ニ編入スヘカラサルヤ勿論ナレハ止ムヲ得ス滿一箇年或ハ二箇年間鎮臺在營ノモノヲ拔テ之ニ流用スルニ至リ實際土言フ可ラサルヲ錯雜ヲ生シ遂ニ實施スヘカラサル法律トナラン夫レ近衛ノ兵タルヤ技藝ニ長シ行狀ノ正シキモノヲ以テ至尊ヲ護衛ニ充ルモノナレハ漸々久ク鎮臺ニ在營セシモノニ非サレハ之ニ充ツヘカラス然シテ在營三年トスルモ之ヲ常備兵ト比較スレハ其役六箇月ヲ増加スルニ似タレ而彼ヲ豫備軍ノ年數中六箇月ヲ減スルカ故ニ兵役ニア

ルコハ同一ノ理ニテ固ヨリ敢テ苛役ト云フニアラス況ヤ兵士ニシテ至尊ヲ護衛トナリ其俸給及ヒ待遇モ亦鎮臺兵ト異ナルニ於テヲヤ誰カ之ヲ武門ノ榮譽ナラスト云フ故ニ内閣下付ノ原案ニ基キ再修正案中然レモ已下ノ三十餘文字ヲ删除セラルンコトヲ望ム

○廿四番 細川潤次郎

番外一番ハ下付ノ原案ニ基キ然レモ已下三十餘文字ヲ删除スヘシト説明スト雖モ本官ハ決シテ之ヲ删除スヘカラサルモノトス今其理由ヲ辯スルニ方リ先ツ再修正案中文字ノ誤リアルヲ以テ豫シメ之カ更正ヲ爲シ然ル後本論ニ入ラントス文中ニ入營六箇月トアル入營ノ字句ハ宜ク在營ニ作ルヘク又二年半ヲ經過シトアルヲ二年六ヶ月ト改作セントス是レ曾テ本官等修正ノ粗漏

ナリシ所ナレハ各位ニ於テモ更正ノ意ヲ了認セラレシコトヲ請フ却
說番外一番ノ說明ヲ不是トシ本案ノ如ク修正セサルヘカラサル理
由ハ内閣下付ノ原案ニ近衛兵編入ノ後三年ノ役ヲ執ラシムトアリ
是全篇ノ法理ニ悖リ本官等不可ヲ鳴スノ要點ナリ特リ法理ニ悖ル
ノミナラス是レ賞罰錯雜スト謂フ可キナリ何トナレハ本條中或ハ
○技藝ニ熟シ云々ノモハ年限未滿ト雖モ假リニ歸郷ヲ許ス等ノ特
典アリ此權衡ヲ以テスレハ然レモ已下數十文字ハ最モ缺ク可ラサ
ルノ緊語ナリ然ルニ原案ノ如ク三年ノ役ニ服セシムトノミニシテ
此要語ヲ用ヒサレハ法律ニ定メタル常備兵役ノ外更ニ六箇月ノ役
ヲ加フルナリ他項ハ現ニ兵役年限中ト雖モ或ハ假リニ歸郷ヲ許ス
モノアリ同ク是技藝ニ熟シ行狀ノ正シキモノニシテ一ハ假リニ歸

郷ノ特典ヲ得一ハ更ニ六箇月ノ兵役ヲ加フト云フノ不平均ハ何等
ノ理由アツテ然ルヤ是本官ガ賞罰錯雜セリト云フ所以ナリ蓋シ徵
兵ハ三年ヲ以テ常備兵役ノ滿期トス而シテ其役タル人民一體ニ負擔
スル所ノ義務ナレハ決シテ避ク可ラサルモノト定ム已ニ之ヲ定メ
タルモ猶技藝ニ熟セルモノニハ特ニ寬典ヲ與フルノ變則アリ是賞
勵ノ意ニ基クモノニシテ誠ニ徵兵令中贊賞スヘキノ要點ナリ之ニ
反シ近衛兵ハ武門ノ榮ナリト云テ殊ニ六箇月ノ兵役ヲ増加スルハ
恐ラクハ人民之ニ甘從セサルヘシ是法理ニ悖レル所以ナリ約スル
ニ徵兵ハ一般確定ノ法律ヲ以テ之ヲ取り其内鎮臺兵ト爲シ又近衛
兵ト爲スモ到底原則ニ確定シタル三年ノ役ニ付スルヲ可トス原案
ノ主意タル已ニ此法理ニ反スルニ由リ在營三年ト定メテ猶取除法

ヲ用ヒ二箇年六箇月ニシテ云々トナセシニ内閣委員ハ此ノ如クシ
ハ追次ニ兵士缺乏シ實際上ニ不都合ヲ生スト云フ本官今試ニ行政
官トナツテ考案ヲ下スニ若シ實際支障アリトセハ近衛兵ハ志願者
ヨリ取ルカ又ハ別ニ俸給ヲ増シ待遇ヲ殊ニシ榮譽ヲ示スカ人民ヲ
シテ甘從セシムルノ良法ヲ編制セハ實際支障ナカルヘシト信ス此
ノ如クセハ多クノ金額ヲ消費ストノ論アルヘケレトモ是以テ止ム
ヲ得サルコトナリ金額ニ不足アリトテ理由ニ反スル法律ヲ立テ強テ
之ニ曲從セシムヘカヲサルハ論ヲ待タサルナリ且ヤ本條強壯云々
ヨリ豫備軍ニ編入スト云フ迄ハ悉ク内閣委員ノ言意ニ從ヒ之ヲ修
正セシモノナレトモ更ニ取除法ヲ須ヒサレハ到底法理ニ反スルヲ以
テ然レトモ以下ヲ加ヘ所謂三年ノ兵役ト云フニ照應シ權衡ヲ均一シ

テ其間ニ二箇年六箇月云々トノ活路ヲ開キシナリ然ルニ委員ハ此
ノ如クセハ續々歸郷ヲ請フモノアリテ忽チ兵員ニ缺乏ヲ生ストノ
掛念アリト雖モ已ニ近衛兵ハ俸給ヲ増シ待遇ヲ殊ニシ之ヲ武門ノ
榮トシテ甘從セシムヘキモノナリトセハ決テ續々歸郷ヲ請フモノ
アルニ至ラサルヘシ是全ク委員ノ説ハ過慮ニ出ルニ似タリ已ニ此
理由アリ然レトモ已下數文字ハ本案總體ノ法理ヲ維持スル主眼ノ字
句ナレハ決シテ刪ルヘカヲサルナリ
○十二番 河野 敏録 本官ハ廿四番ニ同意シ番外一番ノ説ニハ甚々不同意
ナリ抑モ本案ヲ成立セシ所以ハ已ニ廿四番ノ辯明ニ盡セリト雖モ
猶一言ノ其間ニ加ヘサルヘカヲサルモノアリ畢竟徵兵令ニ關シ如
今一般人民ノ思想ヲ問フ所ハ之ヲ人民ノ榮トナスカ或ハ義務當非

トナスカ又或ハ罪科ニ處セラル、如ク厭フトスルカ此三點ニ回顧
 シテ之ヲ翫味スレハ倏然トシテ全篇ノ法理ヲ知悉シ本案ノ法理ニ
 反スルヤ否モ亦從テ了然タルヘシ今現ニ民情ヲ察スルキハ徵兵ニ
 出ルハ皆罪科ニ充テラル、カ如ク之ヲ厭フモノ、ミ俚諺ニ云ハス
 ヤ維新後ノ美政ハ郵便ト警察ナリ其惡政ハ地租改正ト徵兵令ナリ
 ト已ニ人民ハ此ノ如ク厭忌スルノ餘リ故ヲニ身體ヲ傷リ又ハ苟モ
 五年ノ懲役者トナルモ寧ロ徵兵ヲ免カレントスルモノアリ是全國
 人民一般ノ眞情ニシテ決シテ然ラスト云ヘカラス今ヤ徵兵年限ハ
 三年下定メ上ハ縱令近衛兵ト雖モ殊ニ六箇月ハ苦役ヲ増加スト
 云ハ、本人ニ取テハ迷惑際限無カルヘシ何トナレハ甲者ハ殊ニ
 技藝ニ熟シタリトテ年限中ト雖モ猶其歸郷ヲ許サル、ノ寛假アリ

然ルニ乙者ハ平素勉勵己ニ技藝ニ精熟シ行狀謹嚴ナルノ報酬トシ
 テ更ニ六箇月ノ加役ヲ受ルカ如キハ事理ニ於テモ其不公平ナルハ
 看易ケレハナリ然ルニ委員ハ本案ヲ不可トシ專ラ原案ヲ主持スル
 ハ何ソヤ原案ト修正案ノ勝劣如何ハ已ニ辯スル所ノ如シ然リト雖
 モ本案モ亦決シテ完全無缺ナリト認ムヘカラス若シ内閣委員ニ於
 テ更ニ本案ニ勝ルノ公明正大ナル案ヲ提出シ本官ヲシテ歎服セシ
 ムルニ至レハ或ハ之ニ從ハシ然ルニ只管不條理ナル原案ヲ回復セ
 シトスルハ從カセ難シ故ニ本官ハ寧ロ本案ヲ可トス

○十四番 中島 信行 本官モ亦修正委員ノ一人ナレハ聊カ然レモ已下ノ文
 字ヲ加ヘタル所以ヲ陳セントス抑徵兵ノ年限ハ三年ナリトノ法律
 ヲ制定セシ上ハ前後首尾此年限ヲ以テ原則トシ良シヤ至尊ノ護兵

下雖モ加役ヲ爲ス可ラサルモノナリ苟シ近衛兵ト爲ルハ全ク豫備後備ノ軍役ヲ免カル、ヲ得ヘシトノ法律ナリトセハ其權衡ヲ得ルニ付或ハ其役ヲ五年ト爲スモ不可ナカラシ本官等前ニ屢々之ヲ委員ニ質問スト雖モ現今ハ別ニ近衛編制法ヲ設ケサルノ内議ナリト云フテミ夫レ已ニ其法未タ設ケサル以上ハ猶法律ノ原則ニ基キ兵役ハ三年トシ一箇月モ加役スヘカラスト爲スノ外ナカルヘシ已ニ如此見易キ理由アルニ鎮臺在營六箇月ノ上猶更ニ近衛兵トシ三年ノ役ヲ畢ヘシメサルヘカラストハ實ニ解セサルノ甚シキモノナリ今委員ノ説ノ如キハ所謂ル泰山ヲ挾シテ北海ヲ越ユルト云フカ如キノ推誘論ニシテ更ニ甘從スヘキモノニアラス然ルニ委員ハ頻クニ實際施行上ノ不都合アリト云ヒ又從來近衛兵ニ入り滿役ノ後

更ニ再任ヲ乞フモノアリトノ經歷論アリシニ依レハ則一概ニ兵員缺乏スヘキ過慮ニモ及ハサルヘシ故ニ原則ハ到底三年トシ而シ然レモ已下ノ活法ヲ設置セス委員ニ於テモ恐ラク満足ナルヘシト信ス若シ此法ニシテ實際施行シ難シトナラハ別ニ近衛兵編制ノ法律ヲ設クルモ妨ケナシ何ソ此法律アルカ爲メニ別ニ方法ヲ設クヘカラスト云フノ理アラシヤ然レモ已下ノ數文字ハ決テ刪ルヘカラサルナリ

○廿三番柳原前光修正委員ノ説ヲ聞クニ其理由ハ明瞭ニシテ間然スル所ナシ番外一番ノ主持スル原案ニモ在營一箇年ノ後トアリ既ニ其後ト云ヘハ或ハ一箇年ノ後ニ涉リ之ヲ二箇年若クハ三箇年ト假認スルモ肯テ不可ナカルヘク其定期ナシト言フモ亦可ナラン故ニ前

會ニ方リ本官ハ切ニ再修正ノ議ヲ呈シ終ニ本案トハ成レリ夫レ近
 衛兵ハ至尊ノ護衛ニシテ誠ニ武門ノ榮トスト云フハ固ヨリ論ヲ俟
 タスト雖モ法ハ時ノ狀勢ト人民ノ情意ヲ酌量シテ之ヲ制定セサレ
 ハ恐ラクハ徒法ニ屬セン何トナレハ或議官ノ説明セシ如ク今ノ民
 情ハ故サラニ懲役者トナルニ寧ロ徵兵ヲ脱セントスルモノアリ或
 ハ別家ノ稱ヲ用ヒ或ハ養子ノ名ヲ假ル等種々ノ黠智ヲ出シテ其規
 避ヲ謀ルハ歴々見聞スル所ナレハナリ然レハ則チ近衛兵ハ假令之
 ヲ武門ノ榮譽トスルニ人民進テ此役ニ就ントスルモノハアラサル
 ヘシ況ヤ六箇月ノ役ヲ加フルニ於テヤ抑兵ヲ分ツテ四トシ常備
 兵ハ三年ヲ以テ滿期トス是法律ノ原則ナリ是ヲ以テ再修正案ニハ
 近衛兵ニ編入セラル、キハ前後三年半ノ服役ナルニ似タレト然レ

已下ノ數文字ヲ以テ活路ヲ開キ彼自ラ進テ三年半ノ兵役ニ從フ
 モノハ固ヨリ之ニ從ハシムルモ厭フモノハ其請ニ任セ歸郷セシム
 ト云ベキ實ニ法律ノ權衡其宜キヲ得テ毫モ間然スル處ナシ且ヤ廿
 四番ヨリ本案中入營ヲ在營ト更正セントストノ言ハ可ナリ又其二
 年半ヲ二年六箇月トスルハ本官モ同案ナレハ其理由ハ喋々ヲ待タ
 ス但他ノ條項中悉ク二ケ年或ハ三ケ年トアルモノト一面同體ノ文
 法ヲ須ヒントス廿四番ノ改正茲ニ及ハサリシハ或ハ別ニ意ノ存ス
 ル所アルヤ否請フ之ヲ質サン
 ○廿四番細川潤次郎今廿三番ノ說ノ如ク法律文ハ務メテ前後ノ同一ナ
 ルヲ要ス二年六箇月ヲ二ケ年六ケ月トスルハ至當ナリ是レ全ク本
 官前說ニ之ヲ陳セサル所ナレト廿三番ノ說ニ從ハン

○廿三番柳原前光 廿四番ニモ本官ノ修正ニ同意セシカハ之ヲ衆議ニ決
セラレンコトヲ望ム

○四番福羽美靜 廿三番ノ修正ヲ賛成ス本案モ亦不可ナシ故ニ修正ノ決
ヲ取り尋テ本案ノ決議アラントヲ建議ス

○議長 廿三番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲スニ急ク看ス

○廿四番細川潤次郎 本官已ニ廿三番ノ修正ニ同意セシヤ猶他ノ第三條
第一項輜重兵ノ章ニ豫備軍ニ編入シ五年六ヶ月トアリ故ニ是モ
亦五ヶ年六ヶ月ト修正シ前後一轍ニシテ然リトス但シ從來慣習ノ
文法ニハ何年ト云テ下ニ何月ト付スル時ハ二年六ヶ月何年何ヶ月
ト云フ通例ノ語法トス原案モ亦此慣習ノ文法ニ由ルナラシカ兎ニ
角ニ文字ハ一定スルヲ可トス

○廿三番柳原前光 本官ノ(ケ)ノ字ヲ添加セントスルハ廿四番カ演説中近
衛在營二年半ヲ四年六ヶ月ト改ムルヲ可トスト云テ(ケ)ノ字ノコ
ニ及サリシ故ニ本官ハ之ヲ全部一體ノ文法ニ修正セントスルナリ

○廿番佐野常民 本案中字句ヲ加ヘ或ハ規正セントノ説ハ最モ同意ナリ
然ルニ茲ニ内閣委員ノ説明ニ對シ一言ノ辯明ヲ要スルヲ以テ暫ク
ノ時間ヲ籍ラントス委員云ク近衛兵トナルハ武門ノ榮ナリト誠ニ
然リ其俸給ヲ増シ待遇ヲ殊ニスト云モ素ヨリ然セサルヘカラサル
モノナリ已ニ之ヲ武門ノ榮トシ又俸給ヲ増シ待遇ヲ殊ニス然ルモ

尚且人民ハ近衛兵タルニ迷惑スルハ何ノ理由ソヤ苟モ活眼ヲ此點
ニ注クハ推任強逼スヘカラサルノ理由モ亦從テ判然ナリ夫レ今
回改正令ニ於テ兵役ハ已ニ三年ヲ以テ法トス而ルニ其技藝ニ長シ

行狀ノ正シキヲ以テ擇テ近衛兵トナシ更ニ六箇月ノ加役ヲ爲サシムヘシト云ヘハ其人謹テ之ニ甘從スヘシト爲ヌヤ縦ヒ之ニ從フトモ法律ニ於テハ斯ル不權衡ナルコトヲ許サ、ルナリ若シ本令ノ外ニ於テ近衛ノ兵制ヲ編制スルカ如キニ至ツテハ或ハ數年間服役セシムルモ是亦行政上ノ規則ナレハ法律ノ與リ間フ所ニアラス該兵ノ如キハ之ヲ志願者ヨリ取リテ組成スルヲ好トス何トナレハ該兵タルヲ榮譽トシ續々志願スルモノアルモ容易ニ之ヲ許サ、ルト云フノ地位ニ至レハ是始テ至尊ノ護衛武門ノ榮ト謂テ恥サルヘケレハナリ然ルヲ法理ニ悖リテ更ニ役ヲ加ヘ之ニ服セシメサルヘカテスト云フハ果シテ何等ノコソヤ想フニ人民該兵ヲ以テ武門ノ榮ナリト信認スルニ至ラハ鎮臺兵ニ於ケルモ又競フテ各自技藝ヲ磨キ行

狀ヲ正シ終ニ其請願ヲ爲シ容易ニ入營シ難キ場合ニ至ラン要スルニ法律ヲ以テ兵役ヲ三年ト定メ夫如上ハ苟モ行政上ノ都合ヲ以テ之ヲ動カスヘカヲサルハ無論ナリ若シ夫レ武門ノ榮タルニモ拘ハラヌ人々該兵タルヲ欲セズ遂ニ兵員缺乏セハ別ニ其編制法ヲ立テ人民擧テ入營ヲ志願スルニ至ラシメハ決シテ不足ノ生スル憂アラサルナリ故ニ本案ノ然レモ己下ハ一篇ノ精神ノ存スル所ニシテ決シテ删除スヘカラストス

○議長 討議已ニ盡タリト認ム可否ヲ決ス可シ

○外一番渡正 決議ノ前ニ方ヲ猶一言ヲ要セントス本官ノ説明ニ對シ衆口駁議アリト雖モ其要點ヲ分析スルニ兵役ハ三年ト決定セル上ハ近衛兵モ亦同ク服役セシムヘシト云フ一語ニ過キス然ルニ本

條第一項ヨリ第四項ニ至ル迄ハ其三年ノ役中ニモ或ハ歸郷ヲ許シ
或ハ士官學校教導團ニ入レ又ハ下士官ニ撰任スル等ノ目アリテ是
皆變則ヲ設ケシモノナリ已ニ變則ヲ設クル上ハ何ソ獨リ近衛兵ノ
ミニ變則ヲ用ユル能ハサルヤ且ヤ人民兵役ノ義務ヲ負フハ前後已
ニ十年ナリ其常時ニ於テハ常備三年ノ兵役ヲ了ヘ而シテ後チ豫備
軍ト爲リ又後備軍ニ入ルト雖モ若シ有事ノ日ニ方ツテハ直ニ之ヲ
編テ一隊トナシ出兵セシムルナリ此ノ如キハ或ハ繼續シテ五年六
年間服役スルヤ未タ知ル可ラス兵役ハ已ニ十年間之ヲ帶ルモノト
セハ其近衛兵ト爲シ僅ニ六箇月ノ加役アルモ何ノ不可カ之ヲラン
又十二番ノ如キハ徵兵ヲ厭フハ人情ノ常ナリ縱ヒ五年ノ懲役者タ
ルモ寧ロ徵兵ヲ免カレントストノ説アレトモ内閣下付ノ原案ニハ

懲役一年已上ノモノトアリテ五年トハ云ハス修正案ニハ重罪ノ刑
ニ處セヨレシモノトアルヲ以テスレハ恐クハ十二番ハ年限ヲ誤
解セシナラン故ニ併セテ之ヲ聲明スルヨリ然レ共ニ同ニナリ
○甘番在野委員ノ駁議ニ由レハ兵役ハ十年負擔スルモノナリ故ニ
近衛兵ノ役ヲ延スモ肯テ不可ナシト云フノ意ナルカ如シ本官此語
ヲ聞クヤ實ニ驚愕ニ堪ス且云ク第一項ヨリ第四項迄ハ兵役ヲ縮減
スル變則ナレハ之ヲ延スモ亦同シク變則ナリト嗚呼是何ノ言ヤ
抑第一項已下ハ其技藝ニ熟シタル等ノモノヲ賞勵スルノ意ヨリ出
タルモノナルニ已ニ其役ヲ縮減スルヲ得レハ又之ヲ延長スルモ勝
手次第ナリトハ論旨錯雜賞罰混同セリト云テ可ナラン每事辯スル
カ如ク兵役ハ三年ト定メ然シテ之ヲ執テ四兵ト爲シ以テ之ヲ驅役

スルハ法律上正則ナリ若シ之ニ反シ別ニ加役ニ付スルモノアリト
セハ人民ハ決シテ之ニ服從セサルヘシ然ルニ猶法理如何ヲ問ハス
到底是ノ如クセサルヘカラスト云ハ蓋シ從來人民ノ徵兵ヲ厭フコ
蛇蝎ノ如ク或ハ逃匿シ或ハ名ヲ事ニ假托シテ歸郷ヲ乞フモノアル
ヲ以テ今ヤ法律改正ニ當リ此苛法ヲ立テ以テ人民ヲ束縛壓制セン
トスルカ然ラスンハ斯ル不公ナル法律ハ寸時モ許スヘカラサル
ナリ

○廿四番 細川潤次郎 今内閣委員ハ本案第四項中ハ種々ノ變則ヲ用フル
カ故ニ之ヲ近衛兵ト爲スハ彼ノ教導團及下士官ニ取ルト同一ナリ
ト云フモノ、如シ然ルニ第三項ノ如キハ自己ノ志願ヨリ出ルモノ
ナレハ縱ヒ何年ニテモ服役モシメテ可ナリ第四項中ノ下士ト云ヘ

正撰拔シテ之ニ任セラル、モノナルカ上ニ第二讀會ニ於テ更ニ但
書ヲ加ヘタレハ其進退自己ノ意ニ任スルモノトナレリ然レ近衛
兵ニ至リテハ第二項已下ノ法意ト反シ推撰セラル、上ニ六箇月ノ
苦役ヲ受ケシムルモノナレハ固ヨリ他項ト同一ナラサルハ火ヲ親
ルヨリモ明ナリ斯ク論シ來ラハ委員ニ於テモ恐ラクハ考案ヲ轉セ
ラルヘシ之ヲ要スルニ兵役ノ義務ハ三年ト確定セシ上ハ徹頭徹尾
其權衡ヲ得タル法律ニアラサレハ人民ヲシテ甘從セシムル能ハサ
ルナリ

○議長 廿三番ノ修正説ヲ可トスルモノハ起立セヨ

○議長 全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ廿三番ノ修正ニ決シ第二讀會ハ是ニ了

○引續キ第三讀會ヲ開ク可シ
 ○廿四番細川潤引續キ第三讀會ヲ開カル、ハ素ヨリ企圖スル所ナ
 ○然ルニ今第二讀會ヲ畢ヘシ第二條第二項ハ議事正則ニ據レハ更
 ニ第三讀會ニ於テ會議ニ附セラルヘシト雖モ已ニ之ヲ第三讀會ニ
 議了セシモノト看做シ其他ハ逐條議ニ付セラレシヨヲ建議ス
 ○十二番河野賛成ス第二讀會ヨリ第三讀會ニ移ルハ三日間ノ後ニ
 於テスルノ正則ナリト雖モ臨機權道ヲ用ヒ各議官ノ衆議ニ決シ延
 縮取舍スルノ慣例アリ故ニ之ヲ決議ニ付セラレシヨヲ望ム
 ○廿四番細川潤本官ノ言フ所ハ稍異ナリ何トナレハ此ニニツク方
 法アリ今已ニ決了シタル第二項ノ如キ之ヲ原則ニ從ワテ議スルト
 キハ三日間ノ後ニ於テ更ニ第三讀會ニ付スル是レナリ又更ニ便法

ヲ用フル時ハ第二讀會ニ於テ業已ニ反覆討議シタルモノナレハ假
 リニ第三讀會ニ確定決了セシモノト看做シ第三讀會ニハ此項ヲ除
 テ他ノ條項ヲ決議セントスルナリ
 ○十二番河野本官ハ廿四番同意ヲ表セシモ今聞ク所ニヨレハ其
 意見甚タ反對セリ廿四番ハ本案ハ已ニ第二讀會ニ於テ反覆討議セ
 シモノナレハ假リニ第三讀會ニ決了セシモノト看做シ本會ニハ
 之ヲ再議セズトノ說ナレトモ本官ハ然ラス唯成規ニヨレハ今討議
 決了セシ第二項モ三日ノ後ニアラサレハ第三讀會ニ付スヘカラサ
 ルノ成規ナレトモ此ニ變法ヲ用ヒ三日ノ猶豫ヲ要セス直ニ第三讀會
 ニ操込ミ逐條逐項例ニ由テ議決セラレシヨヲ望ム廿四番ノ說ハ稍
 ○々簡ニ失セリトス

○廿番 佐野 常民 十二番ノ説ハ允當ナリ且從來此類ノ變通法ヲ用ヒタル

ヲ抄ナシトセス故ニ其説ノ如クナランコトヲ欲スルニ廿番ノ説ハ

○十四番 中島 信行 十二番ノ説ヲ賛成ス

○議長十二番ノ建議ニ同意者ハ起立セヨ

起立者廿三人

○議長 多數ナルヲ以テ第二條第二項ハ直ニ第三讀會ニ加ヘ逐項決

議ニ付シ更ニ第三讀會ヲ開クヘシ

書記官 戸田 秋成

布告案

徵兵令別冊ノ通改正候條此旨布告候事

但徵兵令ニ關スル從前ノ布告達及ヒ指令ハ渾テ廢止トス

○議長 本案ヲ可トスルモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 戸田 秋成

第一條 徵兵ハ全國ノ男子ヲ徵集シ以テ兵役ニ充ル者ナリ今陸軍

ヲ大別シテ四ト爲ス常備軍豫備軍後備軍國民軍是ナリ又其兵丁

ノ身材ニ從ヒ歩騎砲工等ノ兵種ニ區別ス

但海軍徵兵ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

○議長 渡元 本案已ニ數回ノ會議ヲ經テ本會ニ至リ愈將ニ之ヲ確

定セントス故ニ本員ハ更ニ意見ヲ陳述シ其更正スヘキハ之ヲ更正

セラレンコトヲ希フモノアリ抑此徵兵令原案ハ六月廿三日ヲ以テ當

院ニ下付セラレ第一讀會ニ於テ全部修正ノ委員ヲ定メ爾後數週間
 ヲ經テ修正案漸ク成レリ則チ今ノ問題トナレリ然ルニ内閣下付ノ
 原案ト此修正案トヲ比照スルニ意味反對スルモ少ナカラス本案
 ノ全體ニ於テ頗ル不同意ナルモノアリ是ヲ以テ益原案ヲ主持シ其
 公明正大ナル意趣ヲ説明シ各位ノ圖ヲ改メラレンコトヲ望ム先ツ第
 一三不可トスルモノハ第三條第三項近衛兵ノ項是レナリ已ニ第二
 讀會ニ於テ反撥辯論ヲ費セシヲ以テ今茲ニ贅言セスト雖モ其實地
 ニ施行スルニ方リテヤ不都合言フ可ラス故ニ前會ニ説明セシ如ク
 之ヲ改作セントス第二ハ原案第三條第二項ニ讀書算術云々ノ目ヲ
 掲ク而シテ修正案ニハ之ヲ刪除セル是レナリ但已ニ教導團ニ入リ
 出テ下士タルモノハ乃チ將校ニ亞クノ地位ヲ有シ其定員ヲ七百名

トス故ニ若シ之カ缺員アレハ直ニ徵兵中ヨリ取テ之ニ填充セサル
 ヲ得ス其之ヲ取ル蓋シ慣例ナリ然ルニ算術讀書ノ目ニ由ラスシテ
 唯志願者ノミヲ取ルモノトセハ忽チ教導團ノ定員ニ不足ヲ生シ強
 言スレハ則チ兵隊ノ眼目ヲ拔クト云モ可ナラシ蓋シ千卒ハ得易ク
 二士ハ得カタキモノナレハナリ故ニ更ニ原案ノ如ク此目ヲ掲クハ
 シ第三ハ修正案第八條國民軍ノ項是レナリ此明文ニヨレハ國民軍
 ハ内地ノ役ニ徵スルヲ得ルモ海外ニ事アルニ當リテハ之ヲ徵集ス
 ル能ハサルナリ然ルニ兵事ニ内亂アリ外患アリ凡ソ事ノ外國ニ涉
 ルモ勢ヒ必ス内備ヲ要ス例ヘハ今鄰國ト和ヲ失シ將ニ戰端ヲ開カ
 シトスルニ全國ノ兵ヲ擧ルモ僅ヤ十萬ニ過キス此小兵ヲ以テハ特
 リ其捷戰ヲ期スヘカラサルノミナラス外侮ヲ根致スルヤ必セリ是

ヲ以テ本邦ノ兵制タル國民軍ト雖モ亦止ムヲ得サルノ時機ニ於テハ獨リ内地ノ守衛ニ止マラス時ニ或ハ外域ニ派シ輜重兵若クハ看病卒等ノ役ニ供セサルヘカラサルハ亦自然ノ理勢ナリ

○十一番山口 尙芳 番外一番ノ説ハ甚タ無用ナルヲ覺フ本會ハ何ゾヤ乃チ第三讀會ニアラスヤ第三讀會ハ逐條問議ニ付スルノ正則ナルヲ以テ已ニ第一章第一條ノ朗讀ニ至レリ若シ本條中ニ異議アラハ之ヲ辯論ス可キナリ然ルニ番外一番ハ更ニ下付ノ原案ト相反對スル所ヲ舉ケ全篇ニ對シ不同意ヲ鳴シ或ハ第二條中第二項ヲ論シ又國民軍等ノコヲ辯シ軍談ニ類スル講釋ヲ喋ヤスルハ殆ト無用ノコナリ本官ハ頗ル其意ノ在ル所ニ惑フ故ニ議長ヨリ之ヲ質疑セラレンコヲ望ム

○議長 番外一番ノ説明ハ議長ニ於テ之ヲ無用ト爲サス故ニ猶説明ノ首尾ヲ結了スヘシ

○外 番一 渡 正 前陳ノ如クタトヒ國民軍ヲ外域ニ派遣スルモ彼彈丸雨注ノ中ヲ驅役セシメントスルノ意ニアラス然レモ只内國ノ守衛ノミトスルモハ若シ外患アルノ時ニ當リ之カ聲援ヲ張ラントスルモ肯テ徵集スルヲ得サルニ至ランコヲ恐ル

○議長 時正ニ午ニ達ス少時議事ヲ中止シ午餐ノ後更ニ議ヲ開クヘシ散會セヨ

正午閉場

午後第一時十分開場

○議長 午前引續ノ會ヲ開ク

○外一番渡正

午前ニ於テ本員ハ專ラ下付ノ原案ト修正案ト反對セシ箇條ヲ擧ケ修正ニ同意スル能ハサル理由ヲ陳述スルノ際議事中止ノ令ヲ得テ未ダ首尾全ク説了スル能ハサルヲ以テ更ニ後段ニ説及ホサントス第八條ハ已ニ説明セシ如ク再ヒ贅言ヲ要セスト雖モ同條中只國內ノ守衛ニ充ルモノナリトアレハ縦ヒ海外ニ事アルモ其役ニ使用スル能ハサルノミナラス内國ニ於テ聲援ノ爲ニ國民兵ヲ徵集セントスルモ得ヘカラサルナリ此ノ如キハ實ニ國家ノ盛衰存亡ニ關スルコアルヲ以テ原案ノ精神ヲ透徹セサルヘカラス故ニ此國內已下ノ七字ヲ抹殺センコトヲ望ム第四ニハ第六十四條ニ徵兵ノ免役料トシテ二百七十圓ヲ出シタルモノハ國民軍ノ外兵役ヲ免

ストアリ現行徵兵令中ニ代役料ノコアルヲ以テ此案ニモ之ヲ掲ケタルナルヘシト雖モ國アレハ守衛ナカルヘカラス其守衛ハ兵ニ賴ラサルヘカラス蓋シ兵役ハ人民自ラ之ヲ負擔スヘキノ義務ナリ故ニ上下貴賤ヲ擇ハス皆以テ實役ニ充ツヘキノ然ルニ金銀ヲ以テ代兵ノ用ヲ爲スニ至ラハ富者皆金ヲ以テ兵ニ代ヘ兵役ハ終ニ貧民ノ負擔スルモノ、如ク到底國家ノ元氣ヲ衰頹スルノ媒介法ト成ルヘク此ノ如キハ乃チ同一人民ニシテ其義務ニ厚薄ヲ分ツモノナリ是ヲ不完全不充分ノ法律ト云モ肯テ認言ニアラサルヘシ各位虛心平氣ニ此理由ヲ玩味セラレハ下付原案ノ公明正大ナル所以ハ自ラ曉了セラルヘシ仍テ本員ハ更ニ下付ノ原案ニ復センコトヲ望ム

○甘番佐野 番外一番ノ說明ハ縷々數條ニ涉リシモ已ニ例ニ由テ遂

條問題トナリタル上ハ一々之ヲ辯明スルハ無用ノコナリトス然レ
モ又全篇ニ關係アルヲ以テ止ムヲ得ス要領ヲ指摘シテ之ヲ駁セン
トス一ニ曰番外一番ハ修正案ノ全體ニ不同意ナリト而シテ其不同意
ナル所以ヲ索ヌルニ下付ノ原案ヲ以テ公明正大ナリト自認スルニ
過キサルノミ是等ハ全ク着眼ノ顛倒セルモノニシテ本官等苟モ數
週間意ヲ修正ニ勞セシモノナレハ之ヲ公明正大ノ法律ト云モ或ハ
不可ナカラシ内閣原案ノ如キハ固ヨリ不公明不正大ト云フヘキノ
ミ今試ニ其一二ノ例ヲ舉シニ原案ニ由レハ更ニ宣諭文ヲ加ヘテ公
布セントス然ルニ其下付ノ原案タル素是レ現行法律ノ改正ニシテ
今新タニ徵兵令ヲ發スルニアラス曾テ現行法律發表ノ時ニ方リ畏
クモ宣諭アリシモノヲ以テ之ヲ再ヒセントセシハ抑モ何ノ意ソヤ

夫明治七年本令ヲ發セラルハ宣諭タル實ニ皇國無比ノ一大改革
ナリ何トナレハ本邦ノ兵制タル往昔ヨリ武門武士ニシテ國家ヲ維
持シ人民ハ其下ニ生息シ稅歛ヲ以テ其資ヲ爲セシニ一朝之ヲ改正
シ國民一般兵役ニ充ルヲ制トシ之ヲ徵兵ト名クトノ宣諭ナレハナ
リ爾來官民共ニ之ヲ遵奉シ肯テ違背スルモノナシ斯ク已ニ違背セ
サルノ宣諭ヲ以テ又更ニ之ヲ發スルモハ人民ニ於テ往日ノ宣諭行
ハレサルヲ以テ更ニ再ヒ宣諭セラレカトノ感觸ヲ生ヌルモ知ルヘ
カラス誠ニ思ハサルノ甚シキナラスヤ故ニ修正案ニハ此宣諭ヲ除
キ明カニ改正ノ意ヲ表セリ若シ夫レ更ニ宣諭文ヲ以テ此令ヲ公布
スル時ハ海陸兩軍共ニ徵兵令ナカルヘカラス然ルニ原案ハ陸軍徵
兵令ニシテ未タ海軍ニ涉ラス彼宣諭文ニハ海陸軍徵兵トアルノ意

ニ反ス豈不明不備ト云ハサルヘケンヤ斯ル原案ヲ行カンヨリハ寧
 口現行徵兵令ノ勝レルニ如カス已ニ此不充分ナル原案ニ對シ本官
 等熱心ニ之カ修正ヲ期ラルモ亦止ハヨ得サルニ出ルナリ抑此回本
 案ヲ改正セラル、ノ旨趣如何ト云フハ則從來徵兵ニ不足ヲ生スル
 ヲ以テ務メテ法網ヲ密ニシ以テ彼ヲシテ倅免セシメザラントスル
 ノ意ニ外ナラザルナリ十二番ノ陳述セシ如ク方今人民ノ兵ヲ賦フ
 ヤ東西南北同情ニシテ從來三萬ノ常備兵タモ之ヲ取ルニ不足ヲ生
 スル程ナリ人民ノ情感眞ニ言フニ忍ヒサルモノアルナリ之ニ反シ
 歐洲ニ於テハ一國僅ニ數百萬口ニシテ五萬若クハ七萬ノ常備兵ア
 リ若シ事アルノ日ニ方ツテハ全國擧ゲテ兵トナル我邦三千餘萬ノ
 衆庶ニシテ僅ニ三萬未滿ノ兵員ヲ得ルニ苦シムノ比ニ非ラス實ニ

歎ヌヘキノ至リナラヌヤ夫レ兵ハ兇器ナリ經濟ノ點ヨリ之ヲ見レ
 ハ常備ハ務メテ減スルヲ可トスレモ邦アレハ必ラス守衛ヲ要シ其
 國ノ大小ニ由リ常備兵ナカルヘカラサル所以ナリ我邦已ニ數百年
 來兵權ノ同キニアラサルニ一朝此役ヲ一般人民ニ負擔セシムルヲ
 以テ之ヲ忌避シ其倅免ヲ謀ルモ亦理ナキニアラス蓋シ其武門タル
 華族ト云モ士族ト云フモ今猶祿ニ食シテ存在スレハナリ然レモ時
 勢ノ變ニヨリ勢ヒ止ム可ラサル法律ナルヲ以テ斷然數百年ノ固襲
 ヲ破リ兵役ハ人民ノ義務トシテ自任セシムルニ至レルナリ然ルニ
 此改正案ノ如キハ從前種ヤン辭柄ヲ設ケ事ニ托シテ倅免ヲ謀ルモ
 シアガリシモ爾後決シテ其漏ル、コナキヲ信ス番外一番ハ前會ヨリ
 頻リニ近衛兵ノ項ニ對シ公明正大ナラスト云フト雖モ其說却テ不

公明不正大ト稱スヘキノミ令ヤ人民均一ニ義務ヲ負ハシメントスルノ時ニ方リ猶且政府ハ自己ノ便利ヲ以テ其法理ニ反シ其苦役ヲ長短スルハ果シテ公明ト云フヘキカ正大ト稱スヘキカ政府ノ便利ナリトテ是レノミ之レ務ムル時ハ人民ハ乃チ不便ニ堪ヘサルナリ故ニ法律ハ公明正大ヲ旨トシ而シテ其執役者ノ義務ヲ平等均一ニスル時ハ獨リ徵兵ヲ忌避セサルノミナラス其志願者ノ如キモ亦合セスシテ増加スヘキナリ夫ノ國民軍ノ如キ己ニ十年ノ兵役ヲ畢ヘシモノヲ執ヘ更ニ之ヲ編成シ後備軍ニ次テ之ヲ出軍セントスルハ政府ハ頗ル便ナレ爾人民ハ甚タ不便且ツ不幸トス苟モ上太政大臣ヨリ下人民一般ヲ編制セシ國民軍ヲ以テ外征ニ充テサレハ國光ヲ輝カス能ハスト云フカ如キ國勢ナレハ固ヨリ外征ヲ止メテ可ナリ

貧國弱兵ヲ以テ猶且外征ヲ圖ルハ所謂分限ヲ知ラサルモノナリ又番外一番ハ六十四條兵役料ノ項ニ就テ喋々駁議セント雖モ陸軍ノ經濟上ヨリ之ヲ見セハ代兵ノ料ヲ出シテ其役ヲ辭セシトスルモノハ之ヲ許シテ可ナリ是泰西各國ニ於テモ此例行ハル所以ナリ要スルニ彼ニ便ヲ缺クモ此ニ得ル所アリ此一項ノミヲ以テ論スルハ或ハ不公平ナル如シ下雖モ全篇ノ權衡ヲ以テ之ヲ見レハ決シテ不公平ニアラサル決リ抑本案ニ付テハ本官等精力ヲ盡シ之カ修正ヲ加ヘシモ或ハ未タ完全無缺ト云ヘカヲサラン然レモ之ニ勝ルノ修正アルニ非サルヨリハ寧ロ此案ヲ以テ完全無缺ト認メサルヘカラス故ニ更ニ修正ヲ加ヘントナラハ第三讀會ト雖モ例ニ由リテ之ヲ爲シ其完全無缺ヲ期ス可キナリ

○議長 已ニ全篇ノ説明モ盡タト認ムルヲ以テ逐條ニ就テ討議アルヘシニ更ニ第五條ハ八章ニ歸會ト稱テ國ニ由リヤスルニ如キ已ニ衆議官ノ修正モ加ハズ又本官等モ頗ル考案ヲ回ラシ起帥セシ所ナレトモ猶且不都合アルヲ認定セシヲ以テ更ニ第一條ヲ修正ヲ加ヘシトス但第一條中徵兵ヲ分ツテ四トス常備軍豫備軍後備軍國民軍是ナリトア然ルニ本官ハ一ニ常備軍二ニ後備軍三ニ豫備軍ト爲サントス何トナレハ内閣下付ノ原案ニ豫備軍ト云フハ彼譯語ニ基キタルモノニシテ所謂豫備軍トハ歐洲ニテ之ヲ通シテ常備軍中ヨリ品別スルモノナリ故ニ其實一ニ常備軍二ニ後備軍三ニ豫備軍トスルヲ允當ナリトス但之ヲ區分スルニ第一後備第

二後備軍トシテ可ナリ又第三十六條ニ第一豫備徵兵ト爲ストアリ此徵兵ナルモノハ抑モ如何ナル性質ナルヤ人民ヨリ俄ニ之ヲ見レハ已ニ兵ヲ分ツテ四トス而シテ更ニ此豫備徵兵ト稱スルモノアリテ別ニ之ヲ徵シ之ヲ役スルナラントノ疑懼ナキヲ保チ難シ故ニ是モ第一豫備ト改メ即チ第一豫備第二豫備ト稱セントス然ハ則後備ニ第二豫備モ亦第一第二アリ次テ國民軍ニ至ル若シ夫レ此豫備ナク時ハ第六七條ト面背ヲ殊ニスルカ故ニ止ムヲ得ス修正セント欲スルナリ蓋シ其後備ト稱スルモノハ現行徵兵ノ後備軍ト同シク尋テ一二ノ豫備軍ニ至ル時ハ順序宜シキヲ得テ更ニ不都合ヲ生スルコトハ凡人民タルモ以テ三十年ヨリ三十年迄ハ必ズ兵役ヲ負擔スルモノナリト覺知セシテ而シテ其有專ノ日ニ方

豫備軍ト改メタルノミナリ故ニ本官ハ現行法律ノ却テ允當公平ナルヲ認ムルヲ以テ後備軍ヲ一二トシ豫備軍モ亦一二トシ唯其兵役負擔ニ年限ヲ取捨セントス夫ノ豫備徵兵ノ如キハ全ク今回改正中
 ○新ニ加ヘタルモノナリト雖モ此兵ヤ陸軍隊列ニ於テ必ス無カルヘカラサルモノトセハ何ソ第一條ニ掲ケスシテ第三十六條ニ至リ突
 然之ヲ載スルヲ須ヒンヤ故ニ其曖昧ナル豫備徵兵ハ之ヲ刪リ公然豫備軍トシ第一豫備第二豫備トシテ此第一條ニ加ヘントスルナリ
 而シテ第一第二ト分ツハ猶條中一項二項ト分ツノ例ノ如キノミヤ
 ○議長ニ數刻ノ討議ニシテ各議員漸ク疲勞アルヘシ故ニ本日ハ本會ヲ中止シ更ニ日次ヲ定メテ引續會議ヲ開カントス散會セヨ
 午後第二時五分閉場

元老院會議筆記明治十二年十月十日

○第四百十六號議案 徵兵令及ヒ近衛兵編制改正ノ儀 布告案 第三讀會 十月八日

議長 婦王仁

出席議員

- 一番 東久世通禧
- 二番 水本 成美
- 四番 福羽 美靜
- 五番 秋月 種樹
- 六番 大久保一翁
- 八番 大給 恒
- 九番 黒田 清綱

十二番 河野 敏録

十五番 津田 眞道

十八番 津田 一出

十九番 河田 景與

二十番 佐野 常民

廿六番 伊丹 重賢

廿七番 河瀬 眞孝

内閣委員 外 太政官少書記官渡 正元

内閣委員 外 太政官少書記官馬場 素彦

午前第九時五十分開場

○議長 本日ハ第四百四十六號議案第三讀會ノ續會ヲ開ク第一條中二

十番修正説ニ對シ例ニ遵ヒ發議セヨ

○外 番 馬場 素彦 廿番ハ預備後備兩軍ノ位置ヲ轉スルヲ説アリト雖モ

之ヲ轉スルニ於テハ音ニ原案ノ精神ニ違フノミナラス徵兵令ノ全

篇ニ影響シ且預備徵兵ノ性質ヲ誤ルニ至ルヲ恐ルニ由リ之ヲ等閑

ニ默過スヘカラス仍テ先ツ爰ニ預備徵兵ノ性質ヲ説明セントス元

來第一條ニ常備軍預備軍後備軍國民軍ノ四大別アリ尤國民軍ハ特

別ノモノニシテ隊伍ヲ組立ス地方ニ割付ルモノナレハ良シヤ特立

ノ名稱アルモ預備徵兵ハ之ニ異ナリ全ク戰時補充ノ兵タリタトヒ

輜重ノ役ニ供スルニモセヨ是レ戰時補充ノモノニシテ即チ毎年ノ

補充兵ト同性質ナリ故ニ其補充スルニ及テヤ其性質ハ全ク消滅ス

ルモノナレハ決シテ特立スヘキモノニアラス若シ之ヲ一種特立ノ